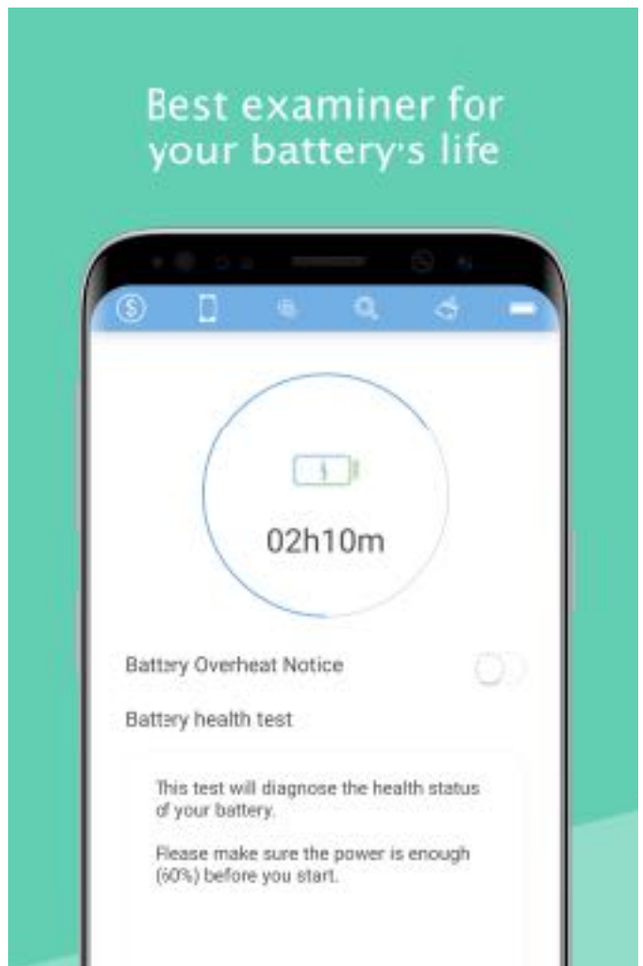
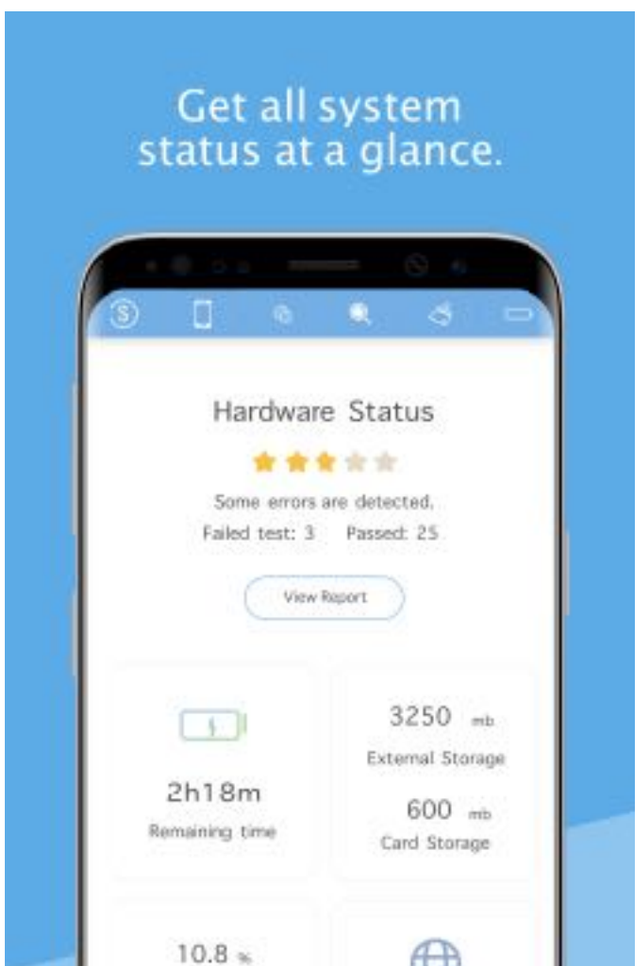
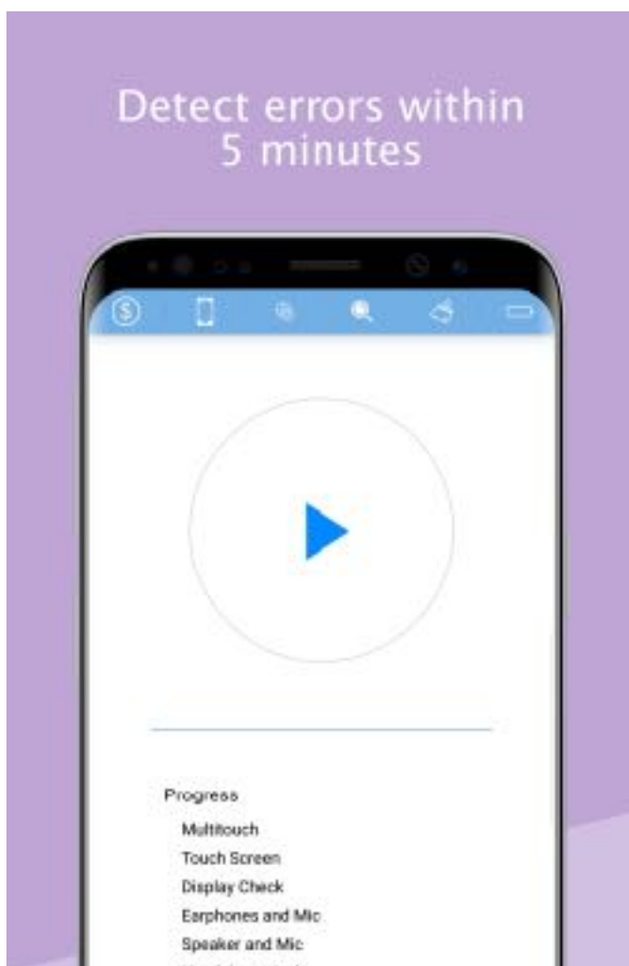
Phone Doctor Plus

Ranked No. 1 phone examiner in 57 countries





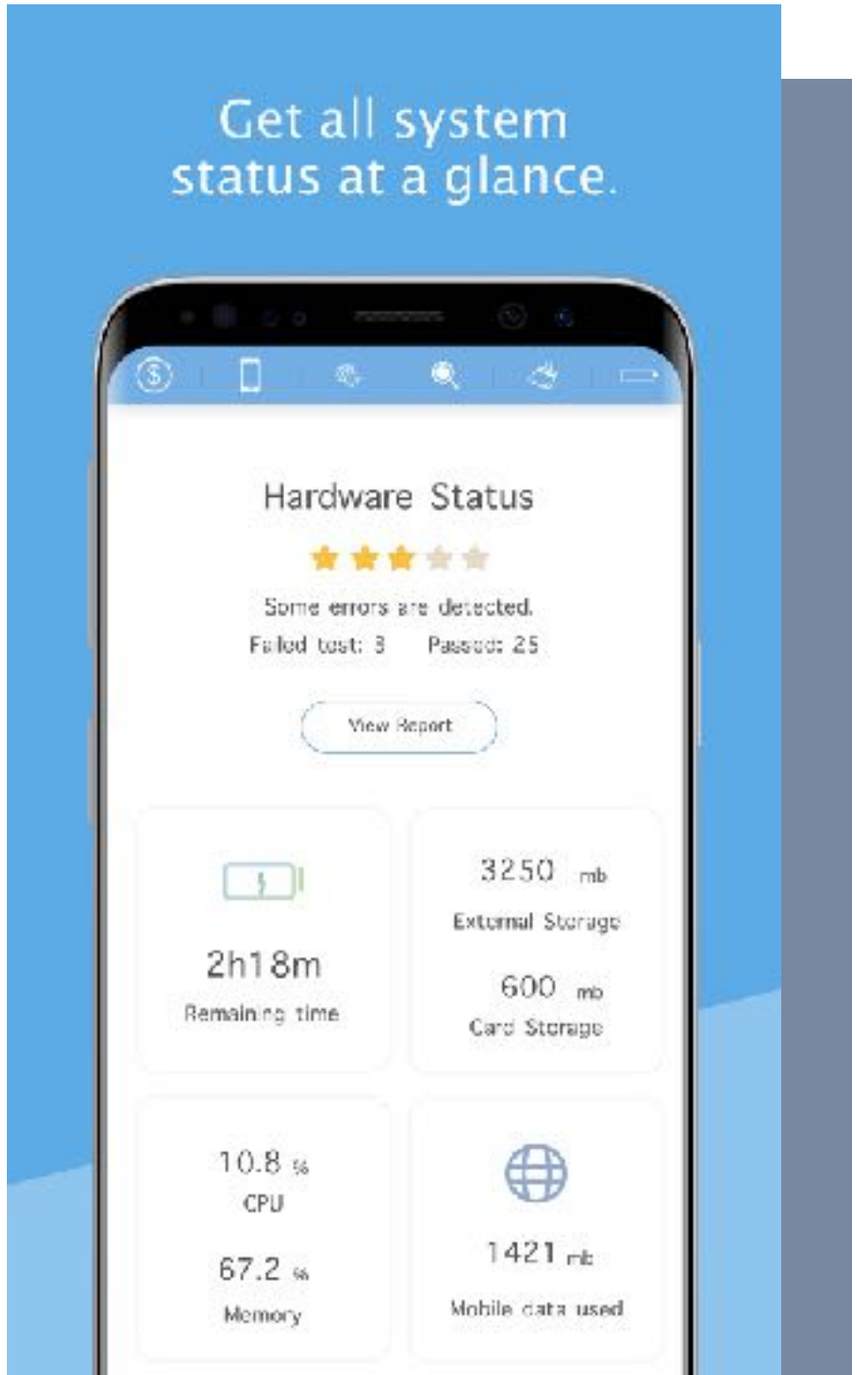


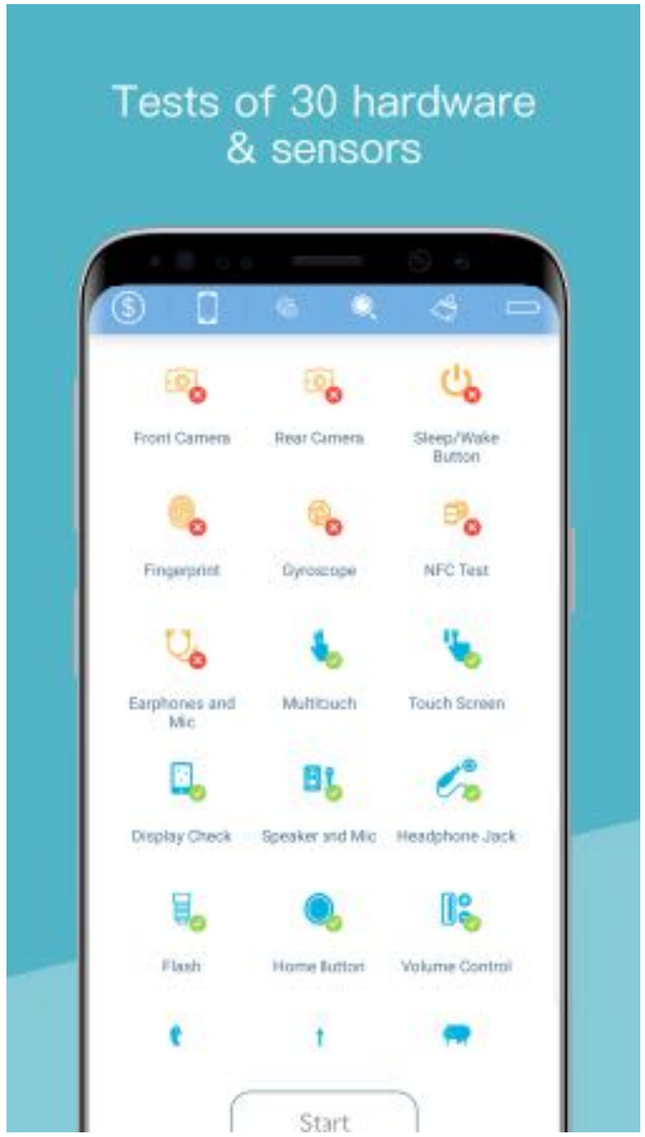
About

Phone doctor plus

ある時にスマホのお使い心地があまり良くないと思ったことがあります。どこかで故障しているかつい疑ってしまいます。なのに、具体的にはどこなのか詳しくないし、そのたびに、小さな支障で修理に持っていく訳にはありません。なぜなら、たとえ何の不具合がなかったとしても、多少見てもらうお手数料がかかってしまいますから。もし、こういう時にスマホの健康診断をできるアプリさえ有れば、家でも簡単に操作できるでしょう。

フォンドクタープラスと言うアプリはこの目的に考えたソフトで非常に便利で役に立つものです。自動検査及びインタラクション検査でユーザーはスマホの健康度を気軽に把握されるようになります。





✳Over 2 Millions of User's choice of hardware device testing app

✳Overall Top1 app in 17 Countries

✳Utility Top1 app in 57 Countries

✳Avg. 4.7+ Stars of Global User Reviews

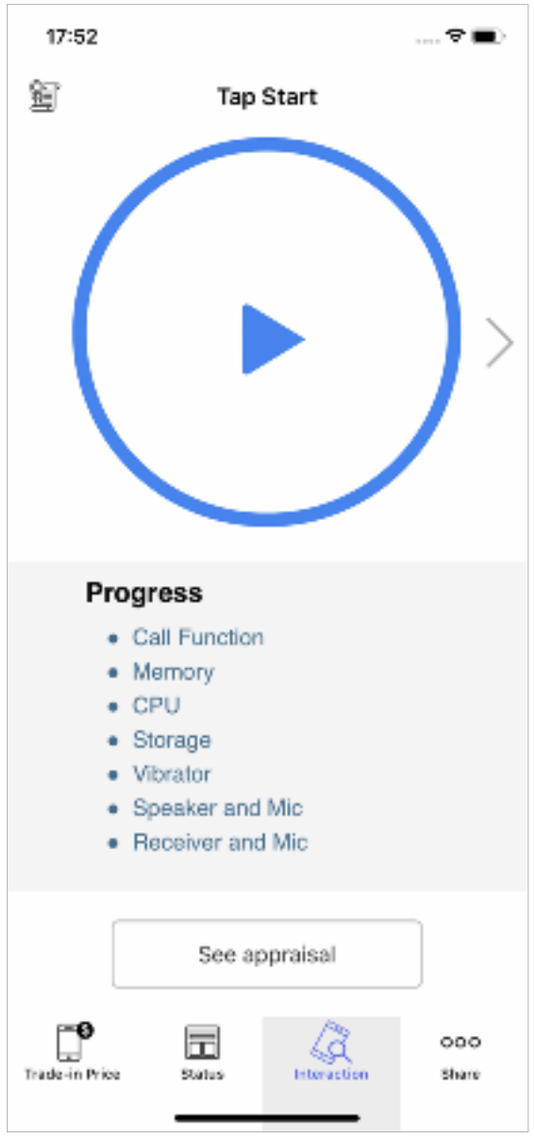
フォンドクタープラスは現在のダウンロード量が580万件を超えています。台湾及び韓国のGoogle公式サイトでもこのアプリをお薦めされたことがあります。そして、台湾及び韓国のApp Storeで2015年度のダウンロード量を１位を取りました。また、台湾のSamsung、Sonyなどのショップではこのアプリ商品をご紹介されています。この機能検査アプリは評価が高くて公式サイトまでにご利用することをお薦めされたものです。

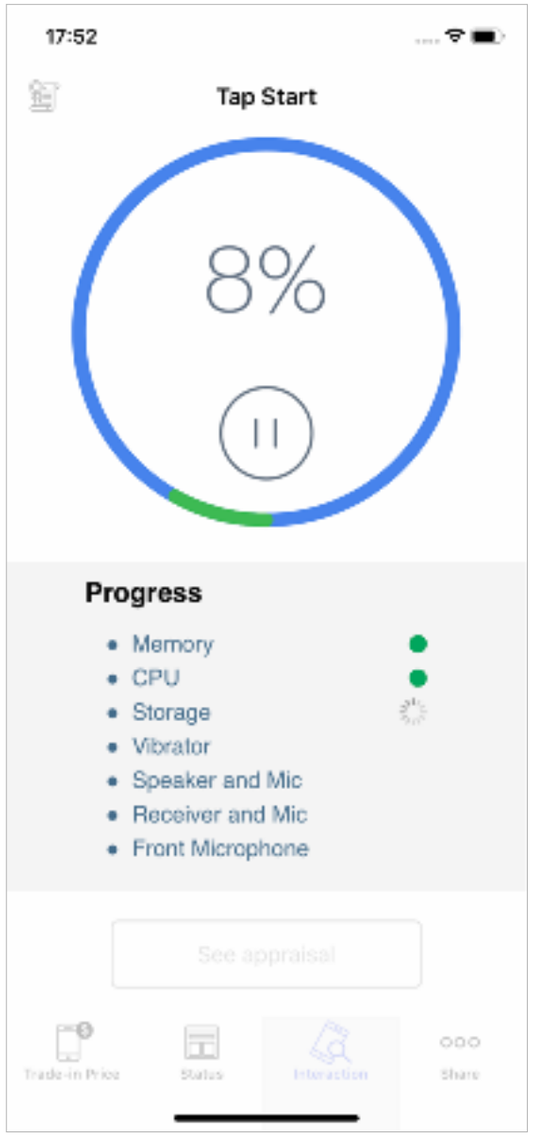
ここからはいいお知らせです。スマホ向けのアプリはiOS版でもAndroid版でも無料ダウンロードができるようになっています。更に検査アイテムも増やしています。一体どんな検査アイテムがあるかご説明させて頂いてから、さぞ早速にダウンロードされますでしょうか。

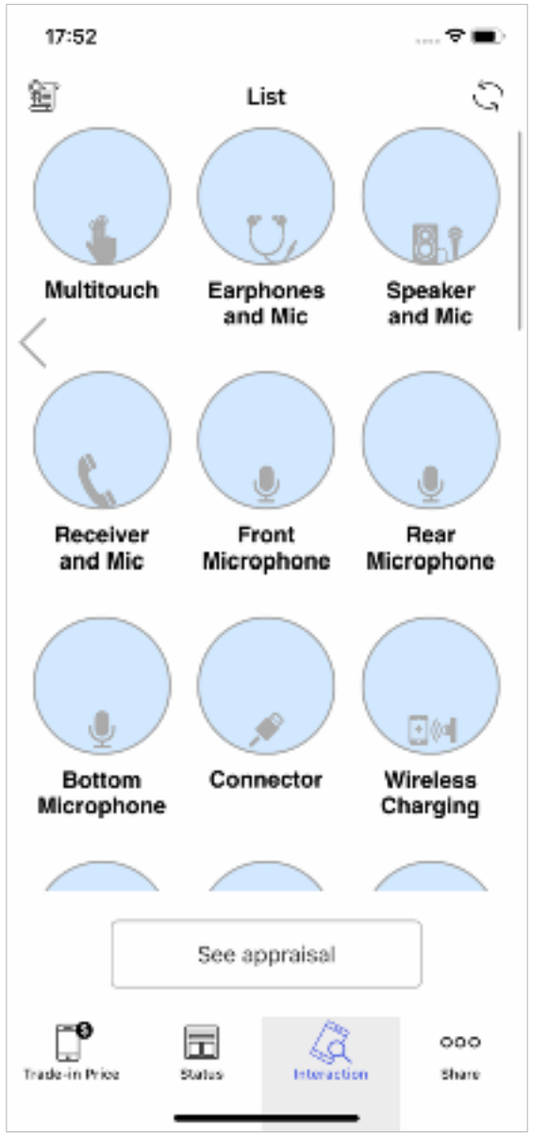
Feature-

ワンタッチ検査

真ん中の三角形ボタンをタップすれば、システムは自動検査を行います。ユーザーは画面の指示のとおりに操作すれば良いです。ただ５分で30項の検査アイテムを完了できます。もし未合格となったアイテムがあった場合、最後に単独検査アイテムで改めて検査を行えば良いです。

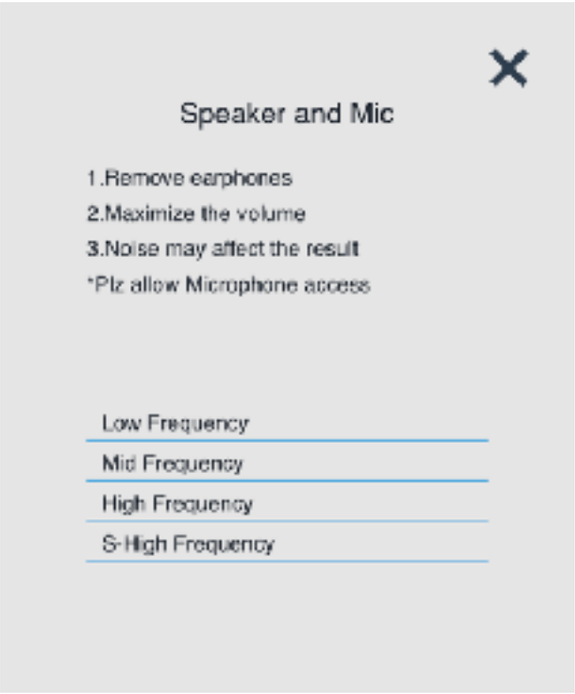






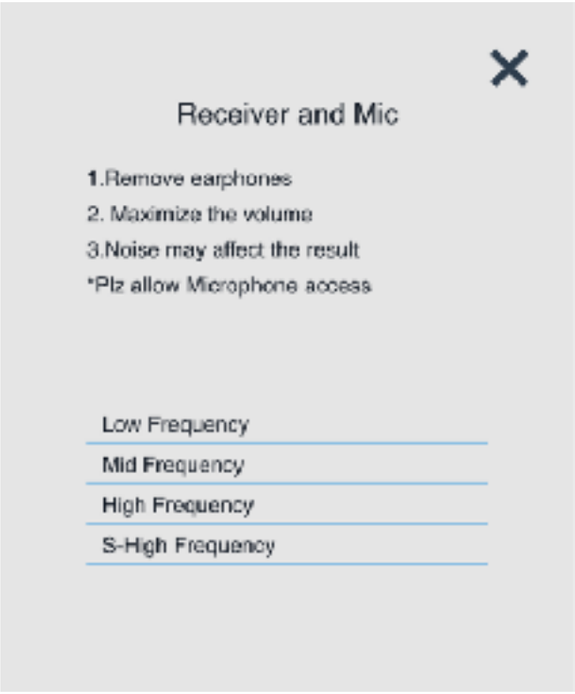
Checkup List-

スピーカーとマイク



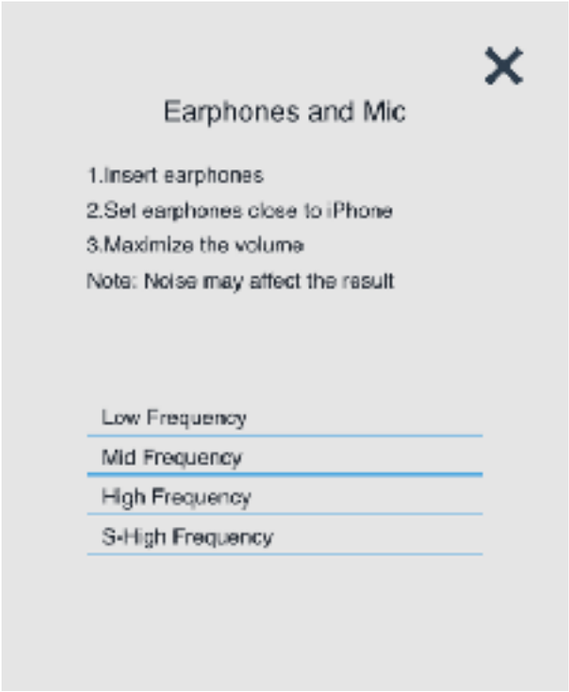
は違って、こちらのアプリは一部の音楽をユーザーに聞かせることができます。また、低周波(300Hz)から高周波(16000Hz)までは自動的にクロス検査をできることだけではなく、低周波と高周波の状態を人の耳よりもっと精確に確認できます。

受話器とマイク



スピーカーとマイクだけでなく、受話器とマイクも音声放送・録音に関わる構成部品です。そこまで含んで考えて何もかも揃った検査アプリとなります。

イヤホンとマイク

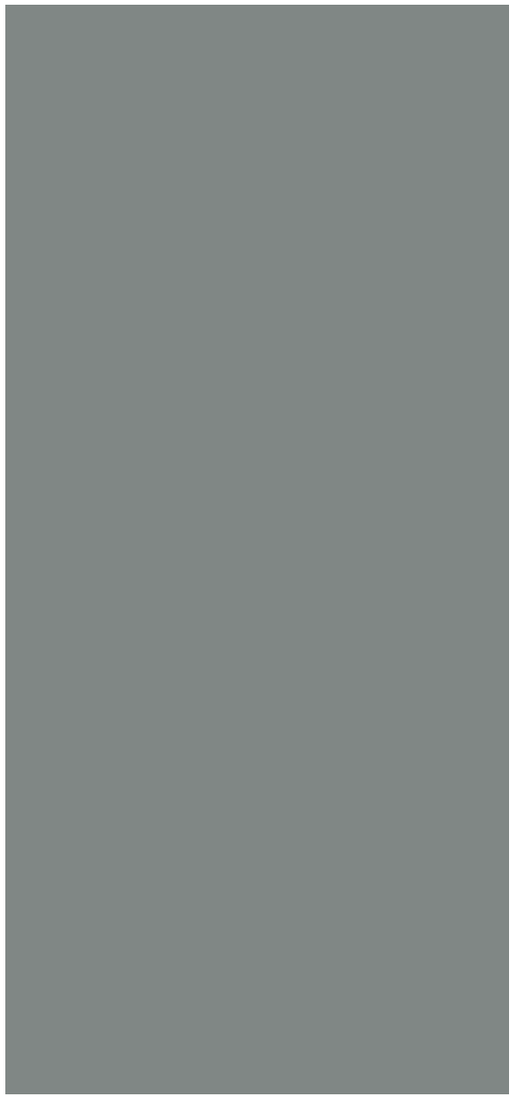


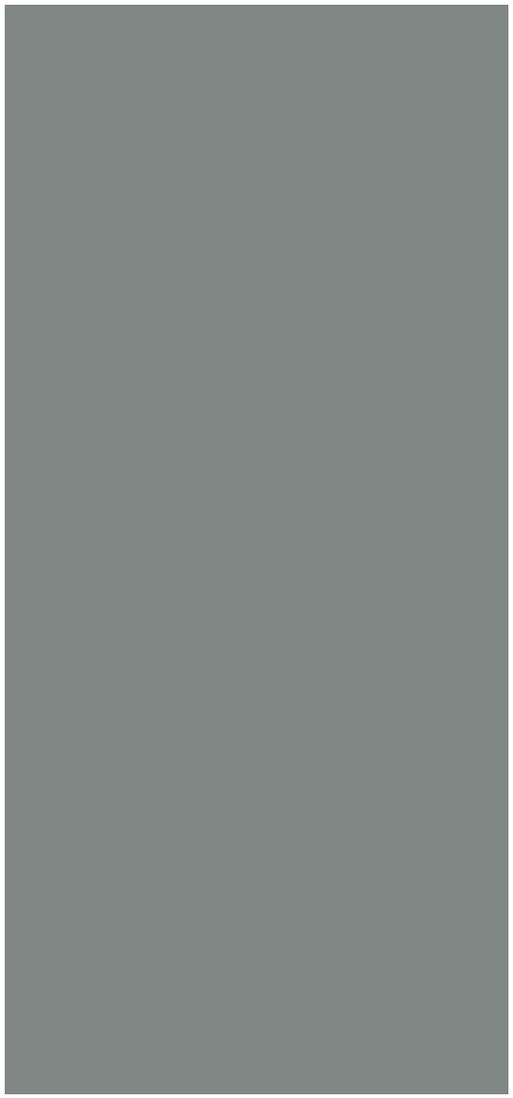
スマホを平坦な机に置いてスマホ自体に振動を検知させます。ご察知の通り、これも自動検査の一環となります。もし、手元に持っているままや平坦ではないところに置くと、容易に検査失敗が発生します。ちなみに、フォンドクタープラスは振動力も含めて検査を行います。普通は細かく見比べてみないと、振動力には異常があるか気づけません。但し、フォンドクタープラスはこの細やかな不具合を見出して頂けます。

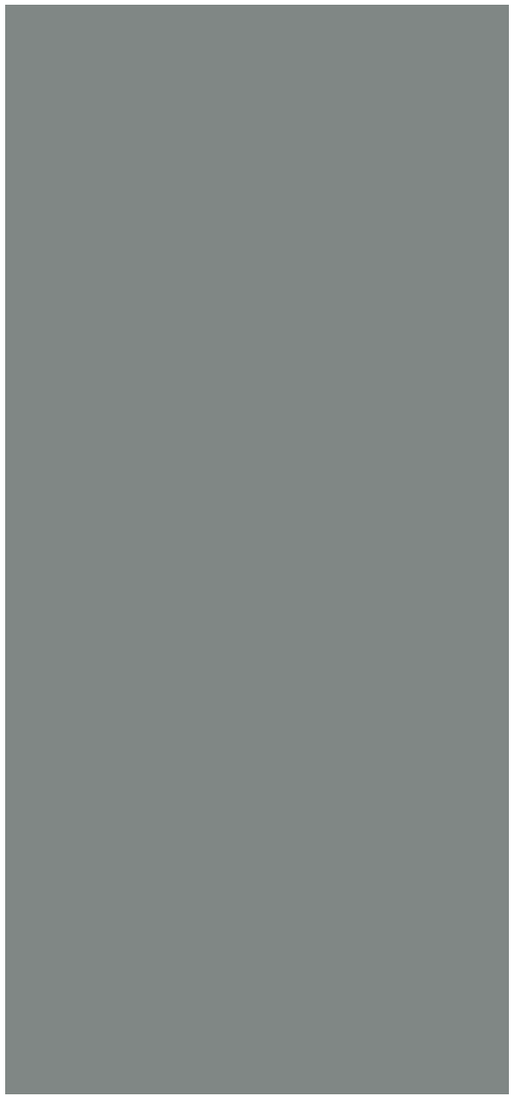
Checkup List-

フロント、背面、底部マイク

上記の説明内容に驚きませんか。まさか他のマイクも検査ポイントに入れてあるなんて思いませんか。フォンドクタープラスはマイクを１つ１つ独立させて検査を行うことにしています。もし音声相関部位には不具合が発生した場合、具体的な状況を見極めて頂けます。







Checkup List-

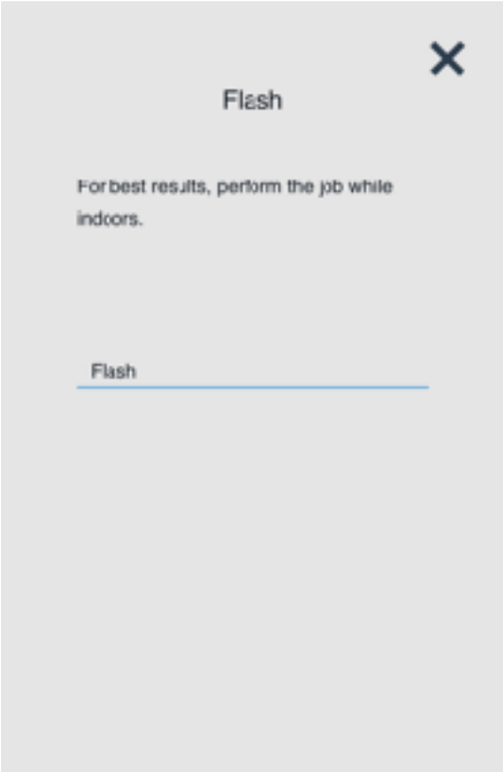
フロント、背面、底部マイク

上記の説明内容に驚きませんか。まさか他のマイクも検査ポイントに入れてあるなんて思いませんか。フォンドクタープラスはマイクを１つ１つ独立させて検査を行うことにしています。もし音声相関部位には不具合が発生した場合、具体的な状況を見極めて頂けます。

バイブレーション

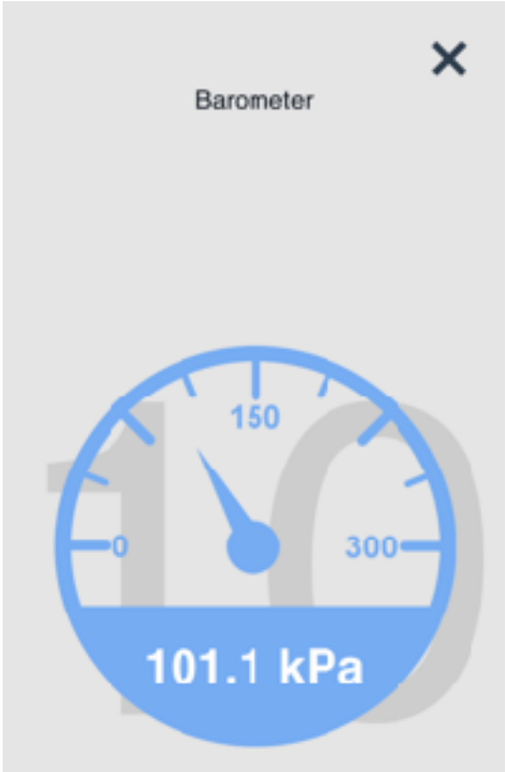
スマホを平坦な机に置いてスマホ自体に振動を検知させます。ご察知の通り、これも自動検査の一環となります。もし、手元に持っているままや平坦ではないところに置くと、容易に検査失敗が発生します。ちなみに、フォンドクタープラスは振動力も含めて検査を行います。普通は細かく見比べてみないと、振動力には異常があるか気づけません。但し、フォンドクタープラスはこの細やかな不具合を見出して頂けます。

フラッシュ



バイブレーションと同様に机に置いて検査を行う必要があります。目的はフラッシュが光っている時にシステムに光源を感知させるためになります。したがって、誤判断にならないように、室内で検査を行うことは重要なのです。

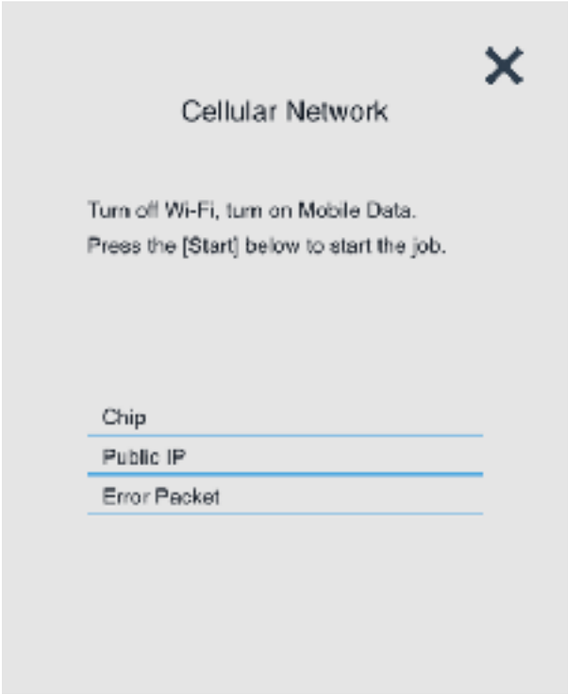
気圧計



スマホに気圧計を内蔵しているとよくご存知ではないユーザーは多いです。現在地の気圧値は如何なるかもよく分からないわけです。このアプリは自動的に当時の気圧を検査して頂き、気圧計が通常の通りに働いているか教えて頂きますので、ご安心ください。

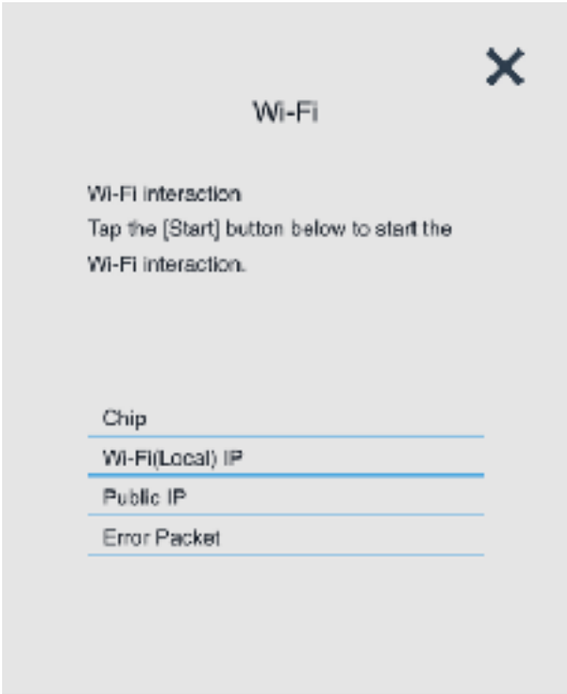
Checkup List-

ネットワーク



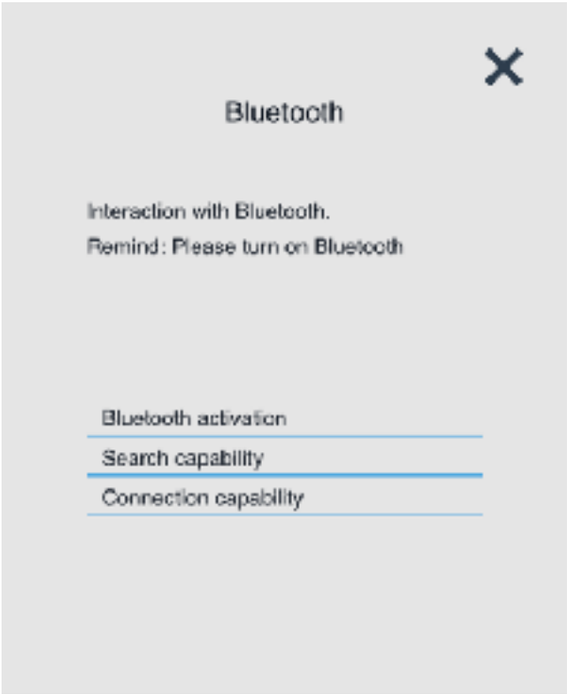
この検査を行う前にWi–Fiをオフにしておく必要があります。また、SIMカードも挿し込んだままでネットワークチップ、IP、パッケージなどを検査してください。

Wi-Fi



ネットワーク診断と反対にWi–Fiをオンにしてネットワークに接続したままで行う必要があります。

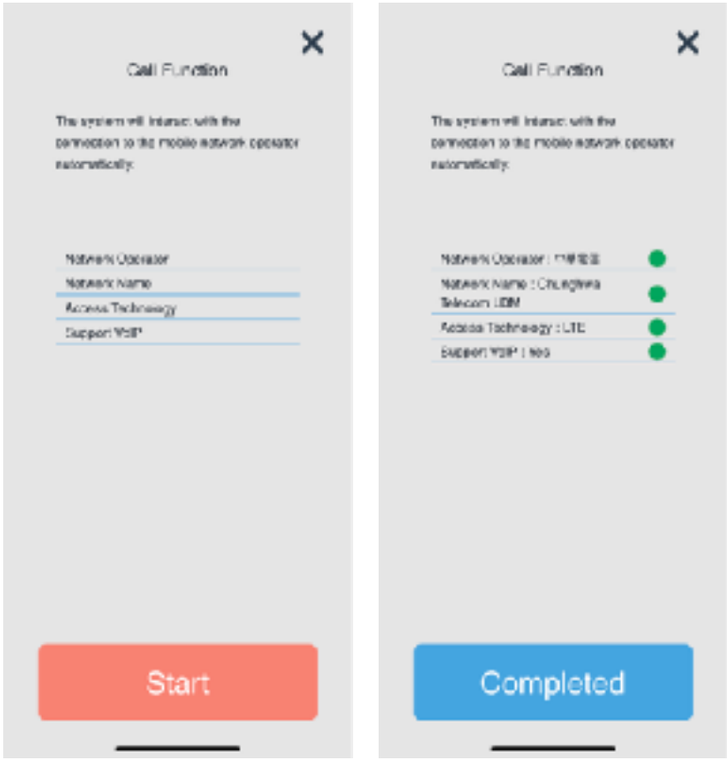
Bluetooth



bluetoothのいずれをオンにして接続したままで検査を行ってください。主にbluetoothの起動、検索及び接続能力が通常の通りに働くか見極めるためです。

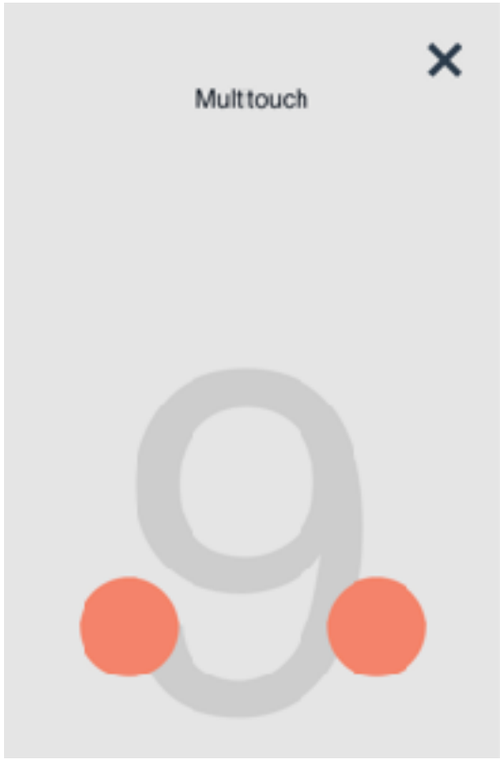
Checkup List-

受話機能



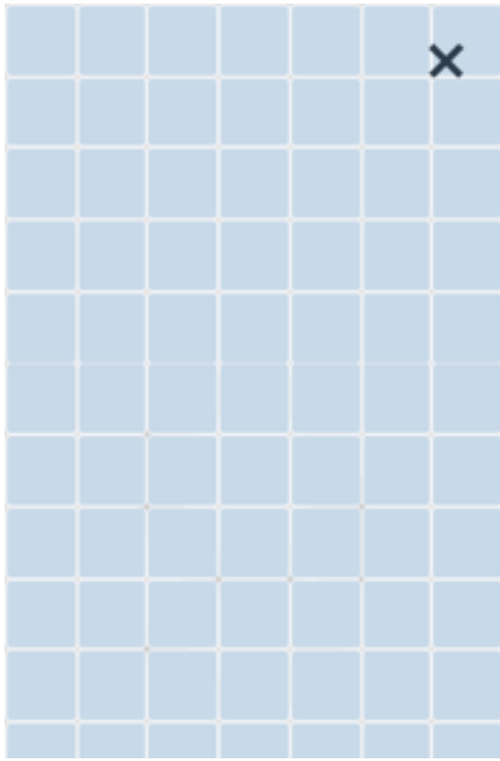
この検査を行うにもSIMカードを挿し込んむ必要があります。通信業者、ネットワーク、接続タイプ及びVoIP（インターネット通話）の診断を主に行います。

マルチタッチ



上記に説明のあった自動検査機能の他に、一部の検査はユーザーとインタラクションを行いながら、することになります。例えば、マルチタッチなら、画面で表示された幾つの丸いマークをユーザーにタップして頂き、機能が通常の通りに働くか判断されることになります。

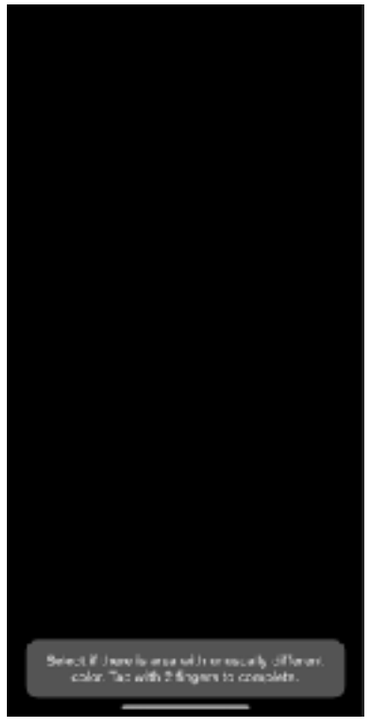
タッチスクリーン



スライドしてブロックを消すことで、画面のどこかはタッチ不良が発生したか確認されます。

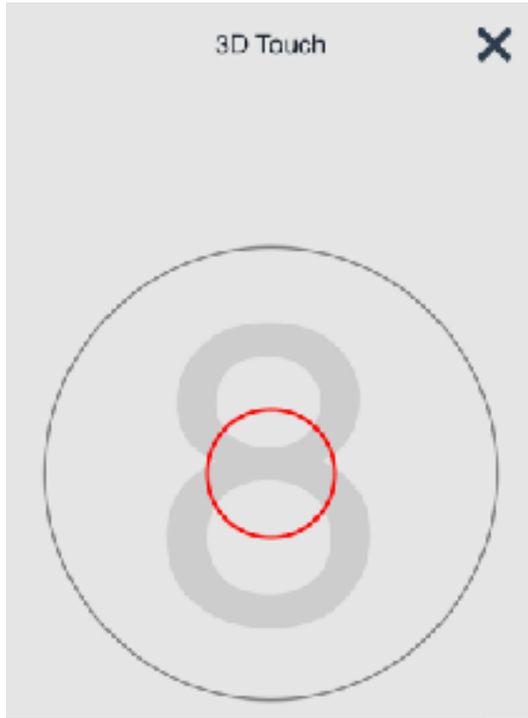
Checkup List-

画面表示



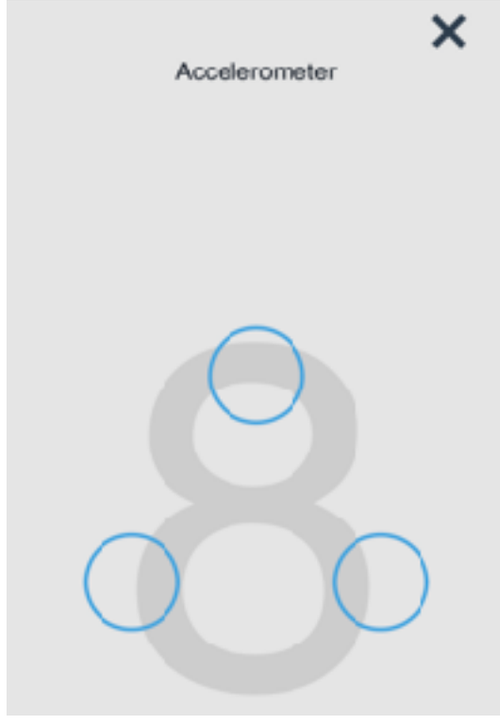
もし異色やおかしいラインが現れた場合、普段にいじる画面のままでは検出されにくいですので、真っ黒と真っ白の画面で画面表示に異常があるかユーザーに確認して頂く必要があります。10秒内で検査が完了されれば、二本指で画面をタッチして検査を終えましょう。

3D Touch



赤い円マークで力加減を軽くからだんだん強めて画面を押してください。赤い円マークを灰色円マークの大きさより大きくして頂ければ結構です。もし、赤い円マークが変な動きで、またはなかなか順調に大きくできない場合、このスマホの画面は品質の悪い非純正部品となる可能性が大きいです。

方位センサー



スマホを傾けながら、オレンジ色の円マークを真ん中の丸いマークに順調に触れる必要があります。

Checkup List-

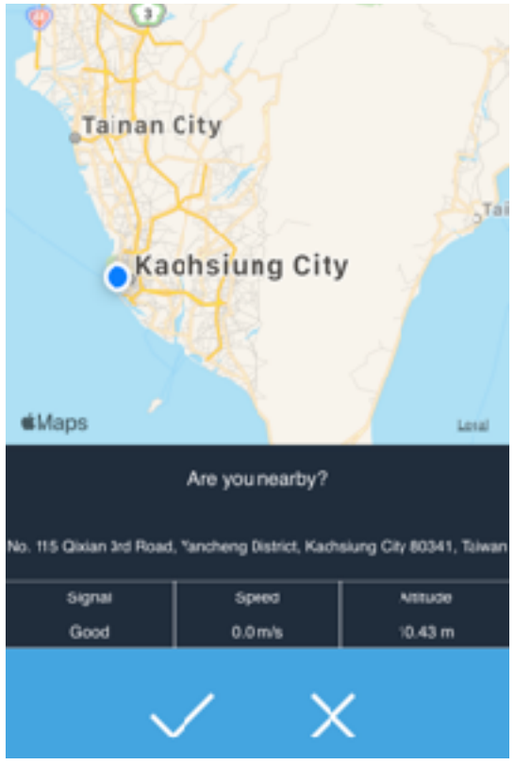
ジャイロスコープ

ジャイロスコープとは何でしょうか、スマホの内蔵装置の１つも詳しくないユーザーはいると思いますが、それでも構いません。スマホを力強く振って頂いただけでフォンドクタープラスはジャイロスコープに異常があるか教えてくれますので、とても簡単な操作です。但し、スマホを振る時に飛ばしてしまわないようにしっかり持っていてください。

コンパス

同様にスマホを平坦なところに置いて一回回転させてください。回転の速さを適当にされますようお願いします。そうされないと、よく失敗します。目的は指針を円のように回せることです。

GPS



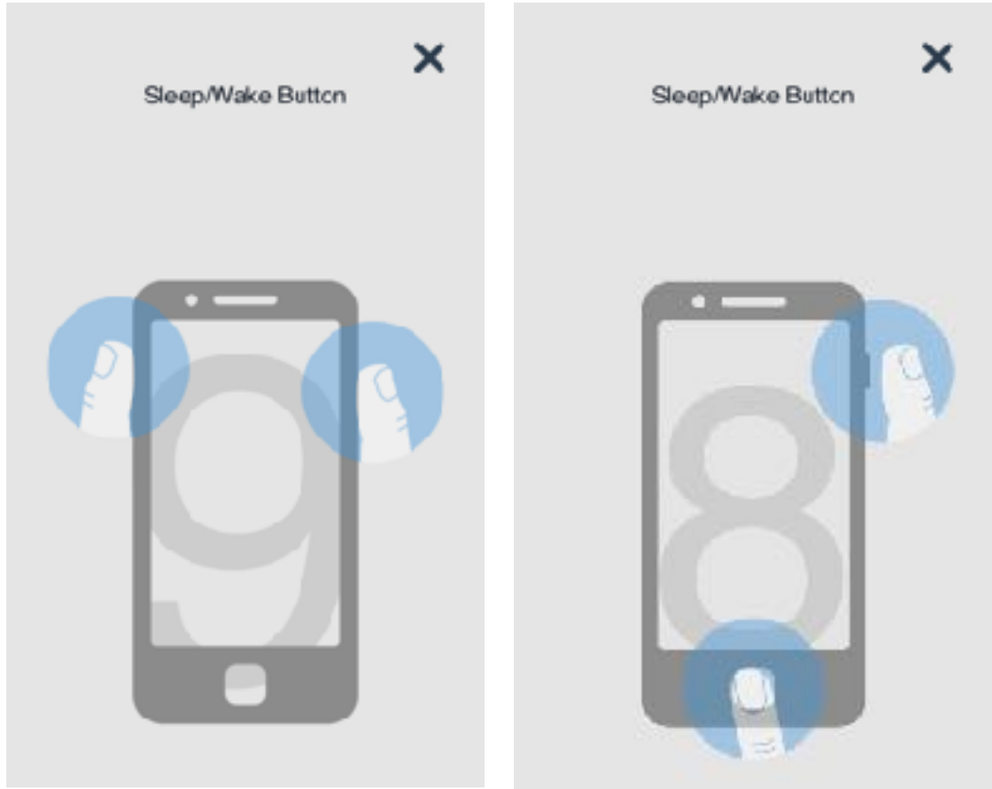
システムからは住所や居場所を教えてくれます。ユーザーはマップの現在地や住所を確認して近くにいるか答えて頂ければ結構です。多少現在地よりずれた可能性がありますが、異常ではありませんので、ご心配しないでください。

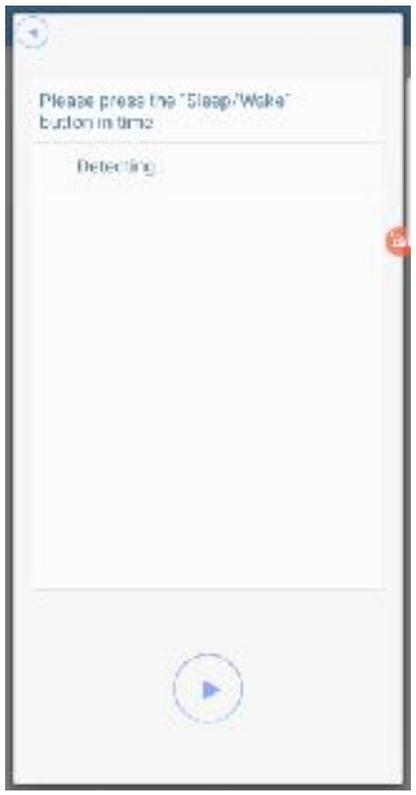
Checkup List-

近接センサー

お手をスマホの上縁に近づけてスマホが感知した後、離してください。

スリープボタン



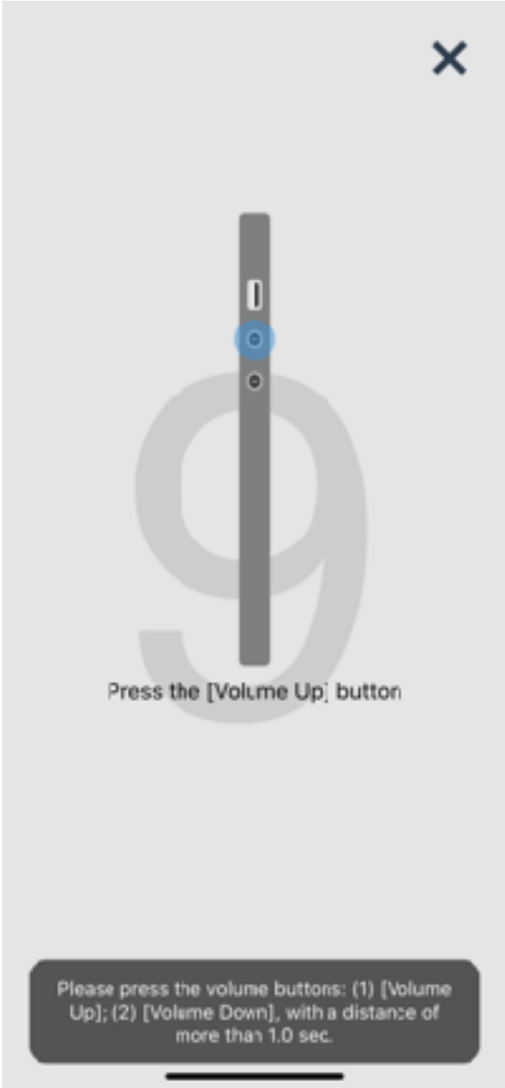


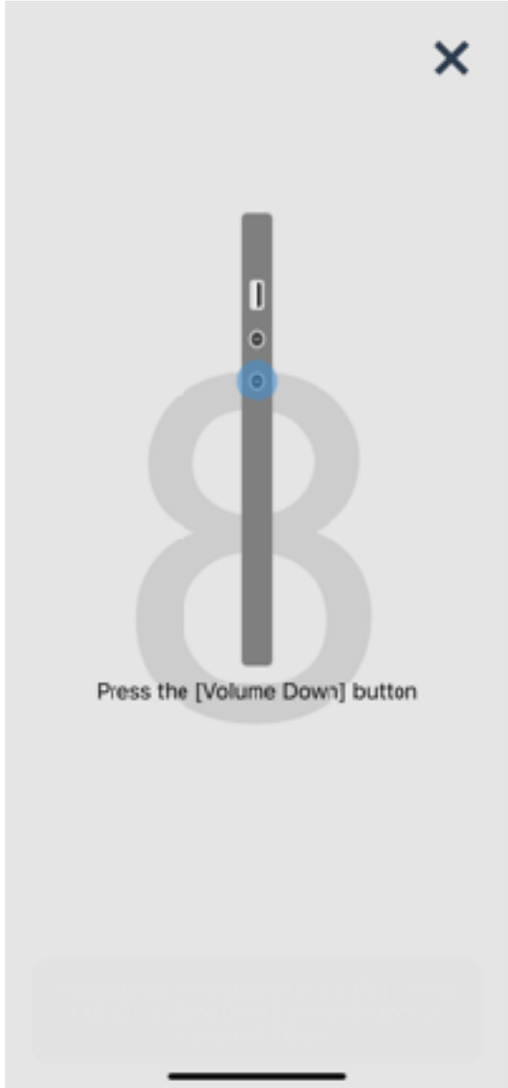
iOSはスクリーンショットのやり方でスリープボタンを検査します。要するにホームボタンと音量大ボタンを同時に押せば結構です。Android版スマホの場合、スリープボタンだけを押せば検査が始まります。画面が順調に閉じた後、再び画面を開けて検査が続行できます。

Checkup List-

ボリュームボタン

音量大を、そして音量小を順番に押してください。一秒おきに操作されるほうは失敗判定が容易に出ません。

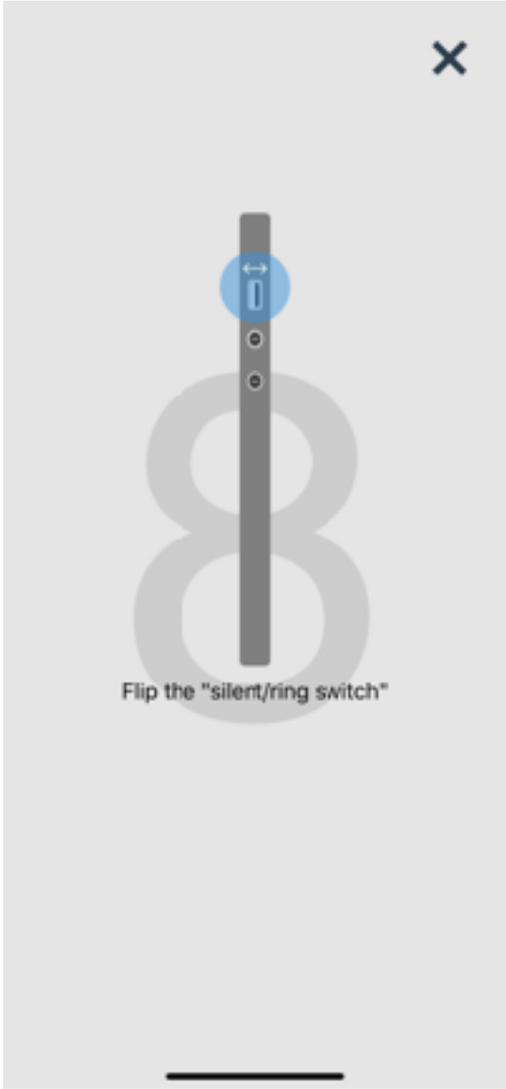




Checkup List-

ミュートボタン

指示のとおりにミュートボタンをタップすれば結構です。ボリュームボタンの検査と同様に一秒おきに操作する必要があります。そうされないと、容易に失敗します。時々故障してあったボタンをタップすると、速くオンになったり、オフになったり、変な動きが出たりしますので、ご留意ください。

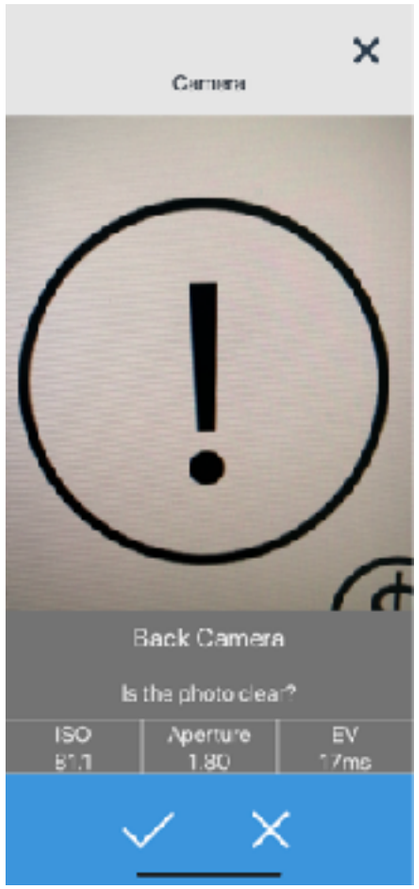


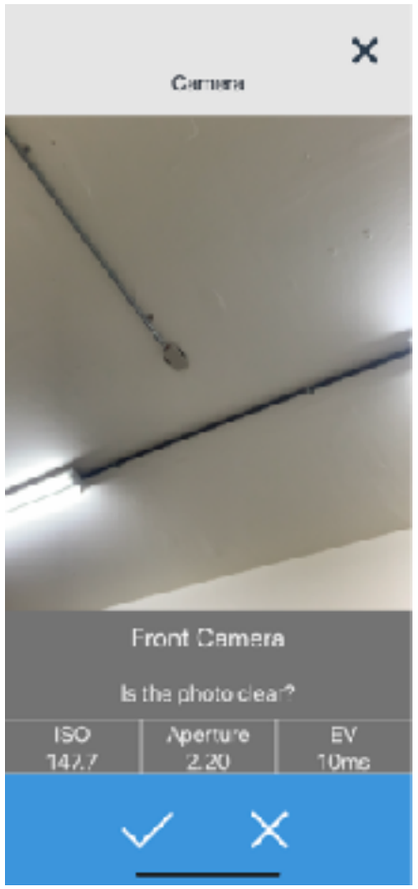
Checkup List-

ホームボタン

この検査アイテムはiOSとAndroidで行うにはそれぞれ少々違います。iOSの場合、連続で速くホームボタンを２回タップしてアプリ一覧表が開きます。Androidの場合、ホームボタンをタップするとデスクトップに戻ります。その後、アプリに戻れば、検査が終了します。

カメラ

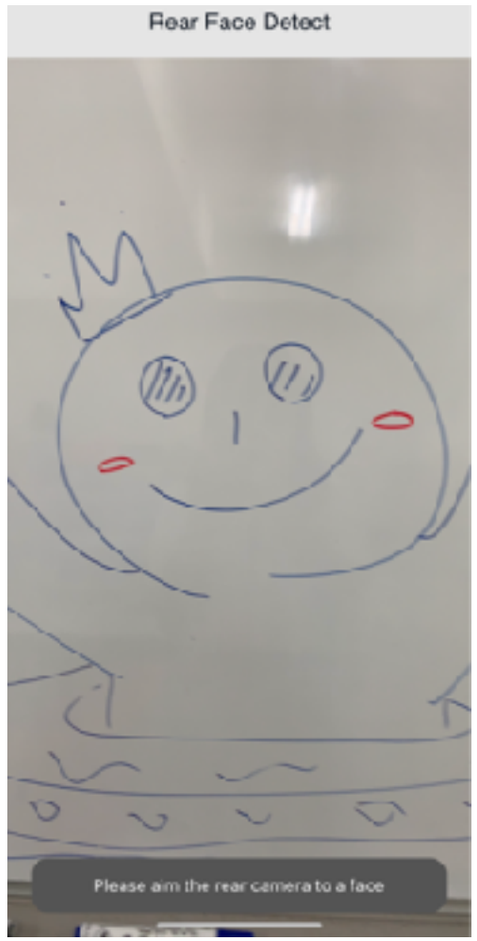




フロントカメラとリアカメラでそれぞれ写真を撮ってください。その後、撮った写真がはっきりしているかご確認ください。

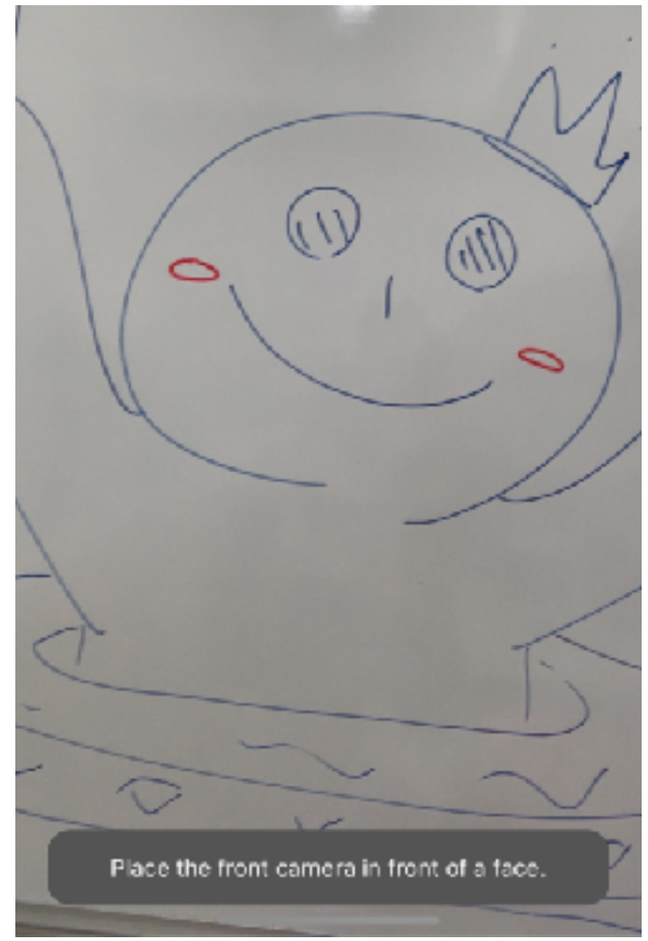
Checkup List-

顔認証



ここもフロントカメラとリアカメラでそれぞれ検査を行います。顔をカメラに向けて頂いたあと、システムは自動判断を行います。

Face ID



顔認証の検査とは違って、Face IDのほうはリアルな顔を撮ることが必須です。そうされたあと、システムは自動判断を行います。

Checkup List-

充電口

iOSユーザーに充電ケーブルを挿し込んで頂いただけで、スマホは充電を感知した時点で検査合格となり、充電ケーブルを抜き出しても構いません。Androidユーザーなら、指示のとおりに制限時間内で充電器に挿し込んで抜き出してください。

Checkup List-

Touch ID (指紋認証)

Touch ID（指紋認証）が搭載された機種は指紋認証を完了したあと、検査を行う必要があります。新しく入手されたばっかりのスマホなら、指紋認証の設定を完了しておいてから、検査を行ってください。

ワイヤレス充電

ワイヤレス充電を搭載された機種なら、ワイヤレス充電の検査をサポートします。搭載されていないスマホはこの検査をスキップしてください。

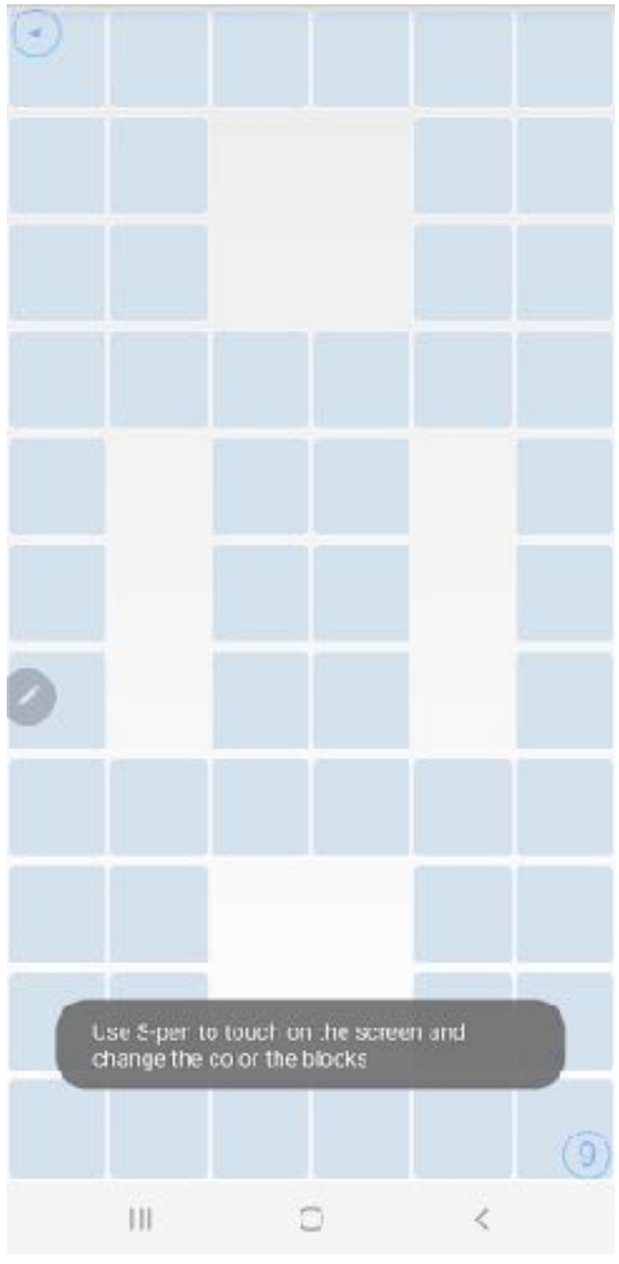
NFC

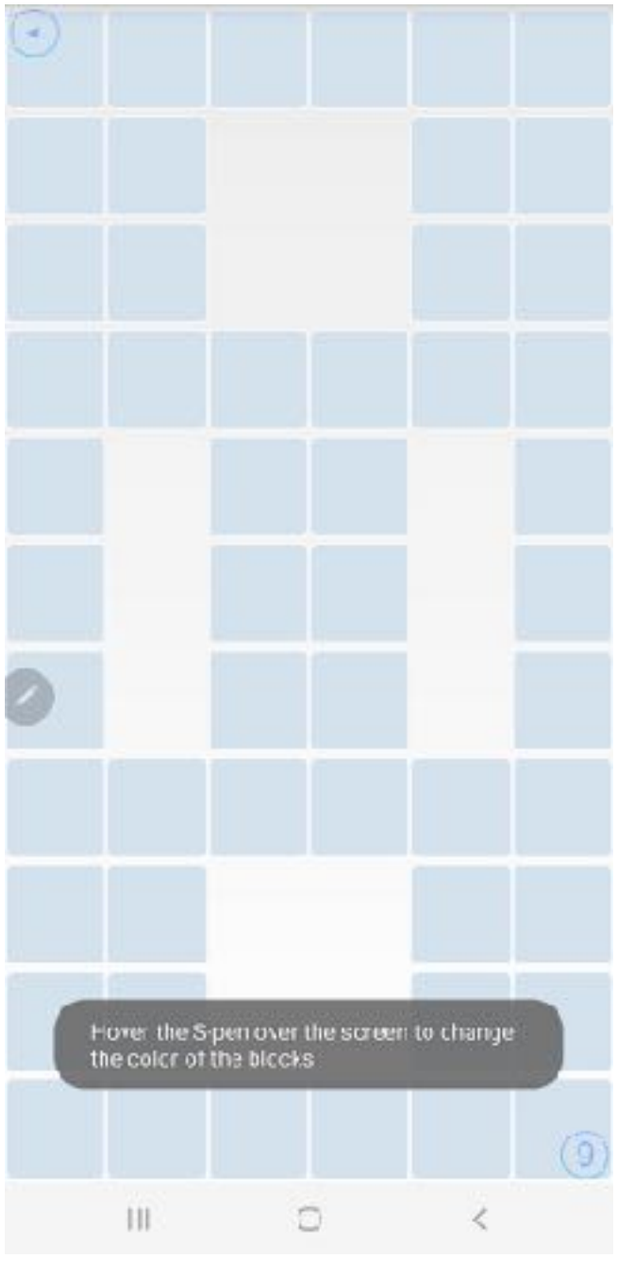
この検査においてiOS版とAndroid版は検査方法が多少違います。AndroidのほうはNFCカードでタッチすれば結構です。iOSのほうはシステムの条件でNFCタグで感知して頂く必要があります。もし、iOSユーザーはこの装置が搭載されていなければ、検査をスキップしてください。

Checkup List-

S Pen

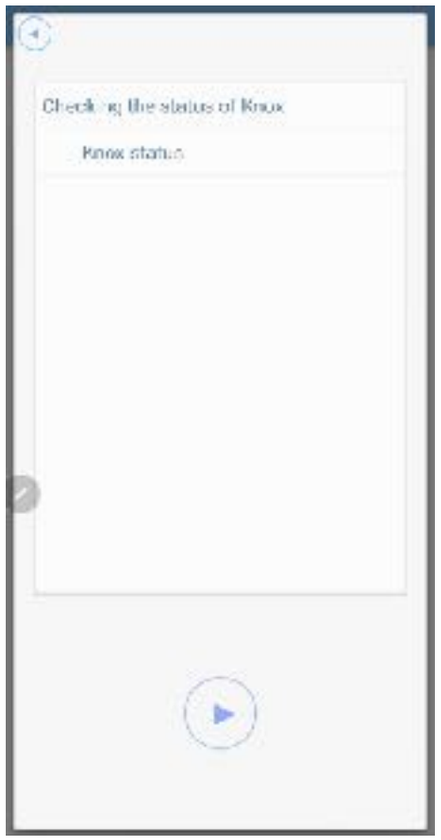
Samsung Noteシリーズのスマホ向けでS Penに対する検査を増やして頂きました。この検査は2段階があります。第一段階では、S Penをスクリーンの真上に画面をタッチせずにブロックを変色させてください。第二段階では、S Pen先を画面にタッチしてブロックを変色させてください。





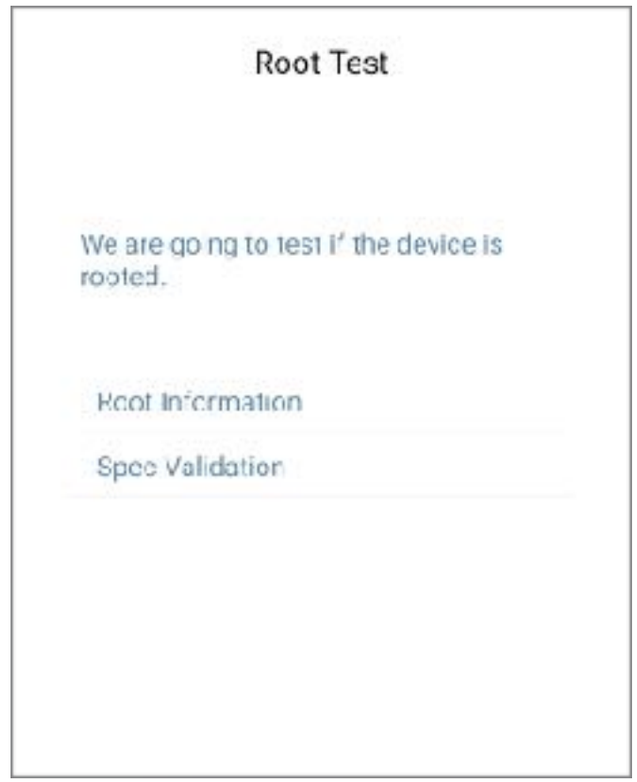
Checkup List-

Knox



この検査もSamsung向けで新しく追加したアイテムです。Knoxは Samsungの独自安全技術です。検査が未合格となった場合、保証期間内のサービスに影響を与える可能性があります。

Root



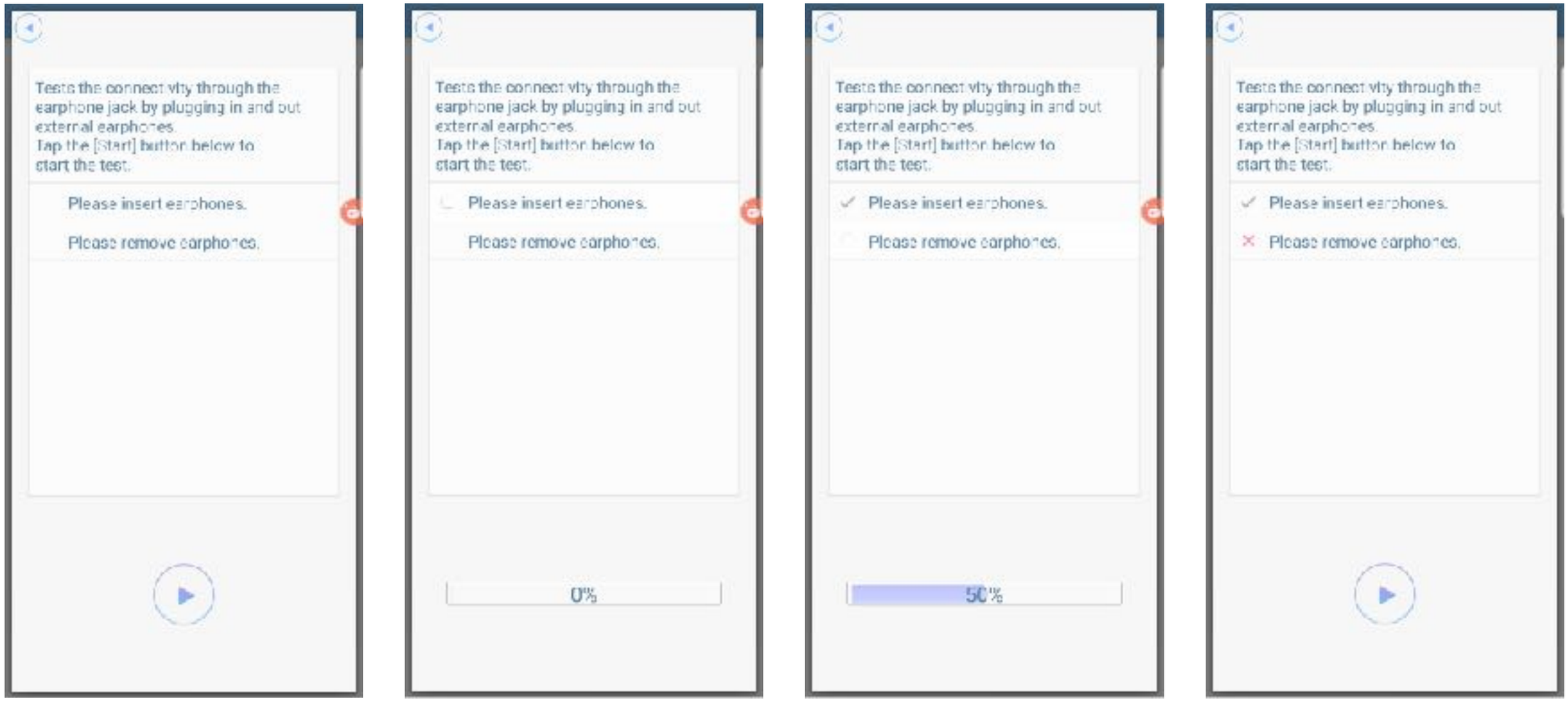
Android向けの検査となります。スマホはrootされたかどうか確認するためです。

光センサー

Android向けの検査となります。スマホを光源に近づけてスマホの状態を診断する方法です。

Checkup List-

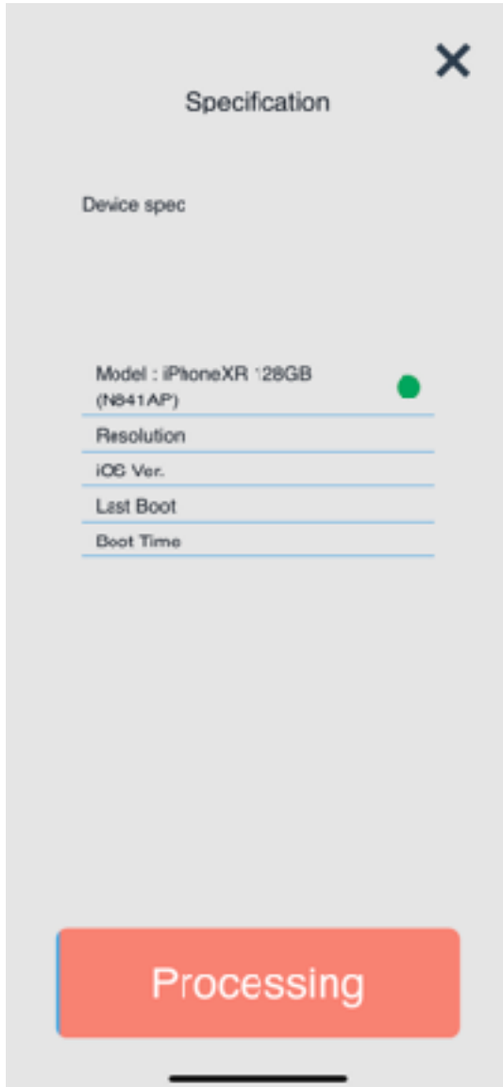
イヤホンジャック



これもAndroid向けの検査となります。指示のとおりに時間制限内でイヤホンを挿し込んで抜き出してください。あまりに速く操作しないでください。失敗判定を容易に出してしまいますから。

Checkup List-

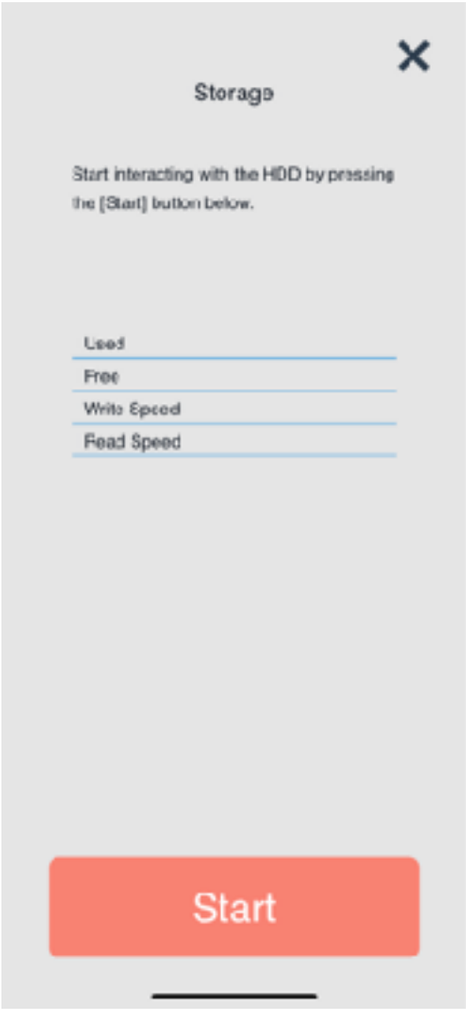
スペック



iOS版スマホは機種によって型番とストレージを選択しておく必要があります。システム側はユーザーの選択内容をスマホのスペックと見比べて一致するか確認します。こうした検査を通してスマホの真偽をユーザーにも把握して頂けるものです。

Checkup List-

ハードウェア



主にハードウェアの容量と書込速度や読取速度を検査します。アプリに自動検査を行わせれば結構です。

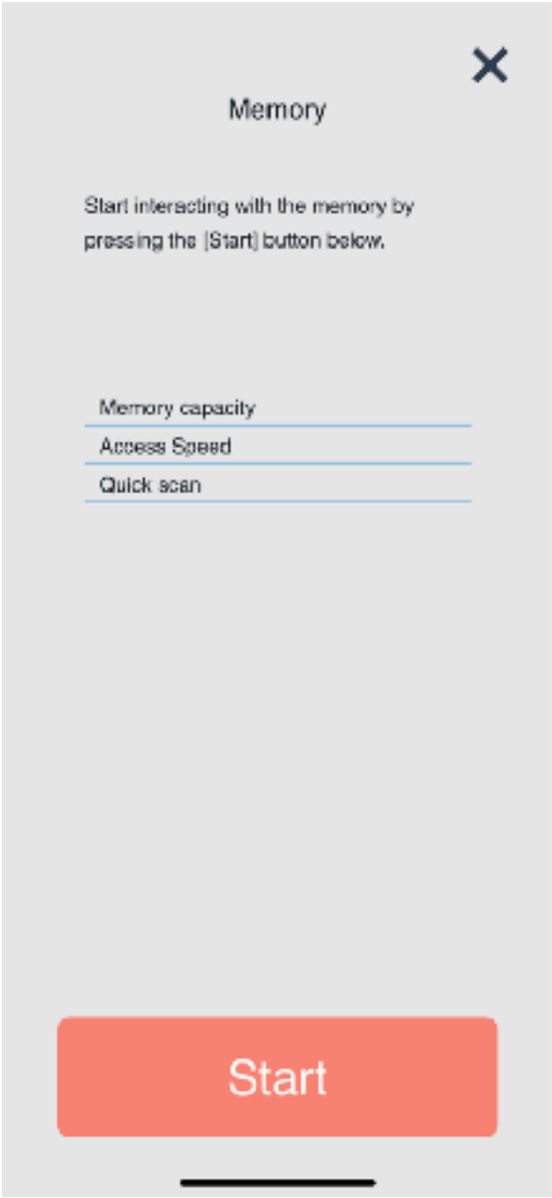
CPU

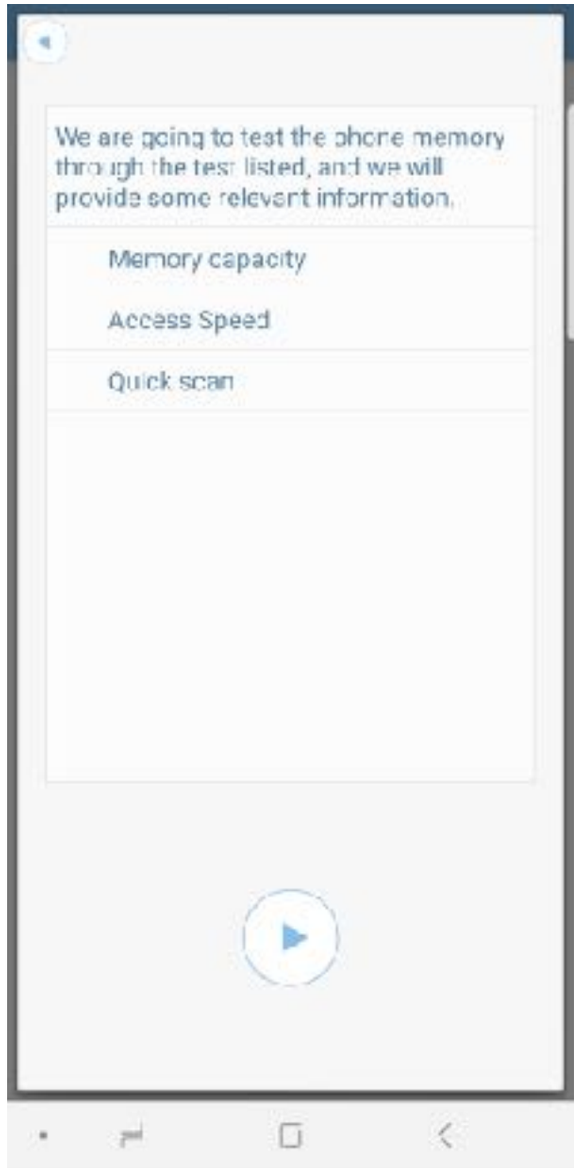
CPUのデータを読み取って専門的なデータをご提供されます。型番、コア数、構成、キャッシュ、性能指数などの情報を入手されます。

Checkup List-

メモリ

この検査を終了させたあと、メモリの読取り速度と保存速度のデータをご提供されます。同様にアプリに自動検査を行わせれば結構です。

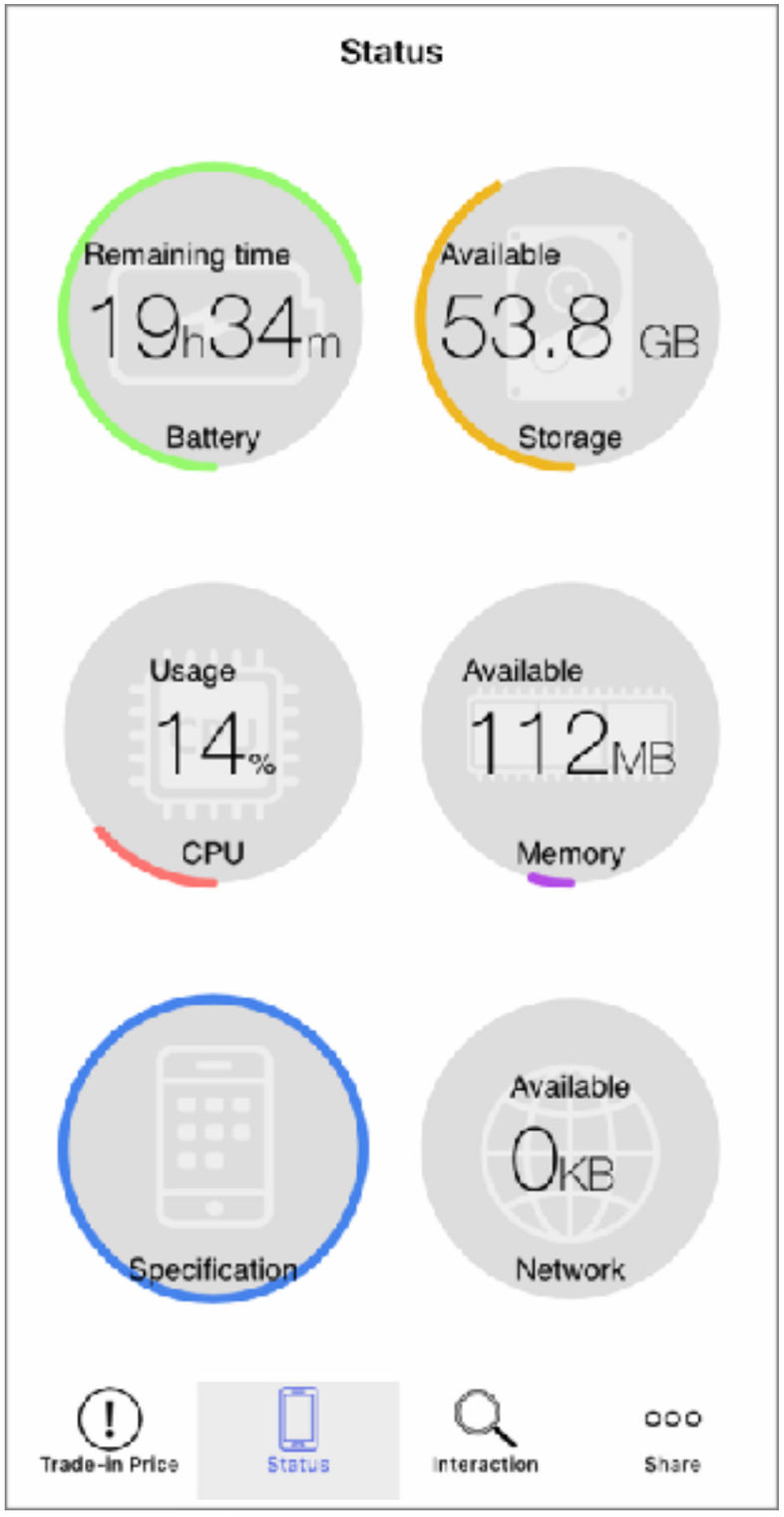




For iOS version

機種によってサポートする検査内容が異なること以外に、iOS版とAndroid版はインターフェイスと機能上の差異も出ます。

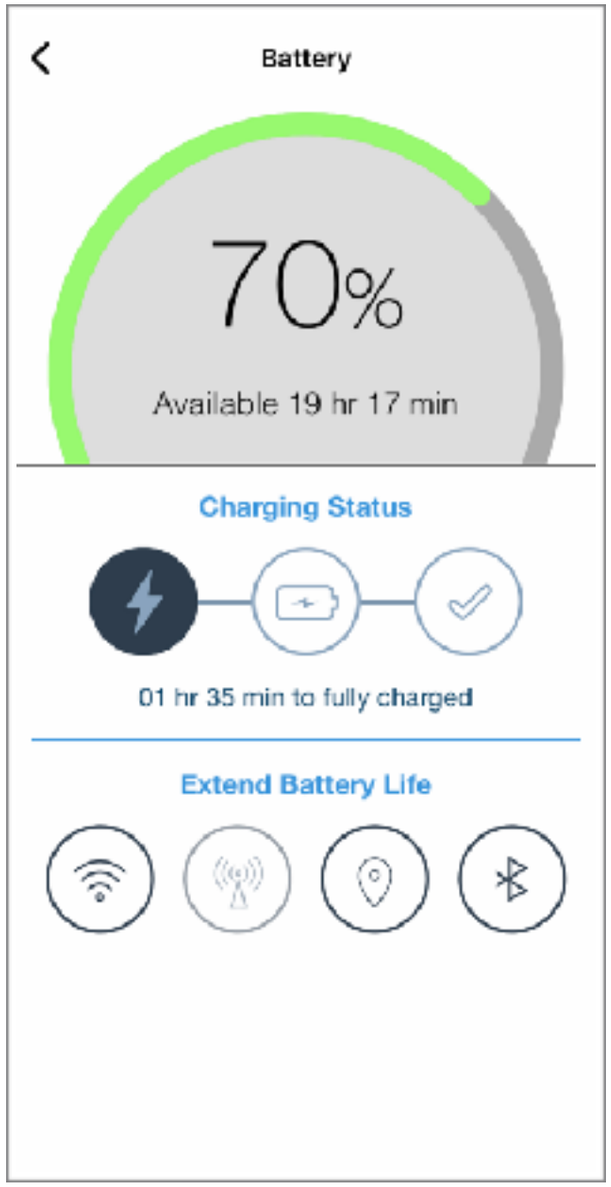
機能一覧表にある「スマホ状態」を開けてください。スマホのバッテリー、ストレージ、CPU、メモリ、スペック及びネットワーク通信量などの情報を確認できます。

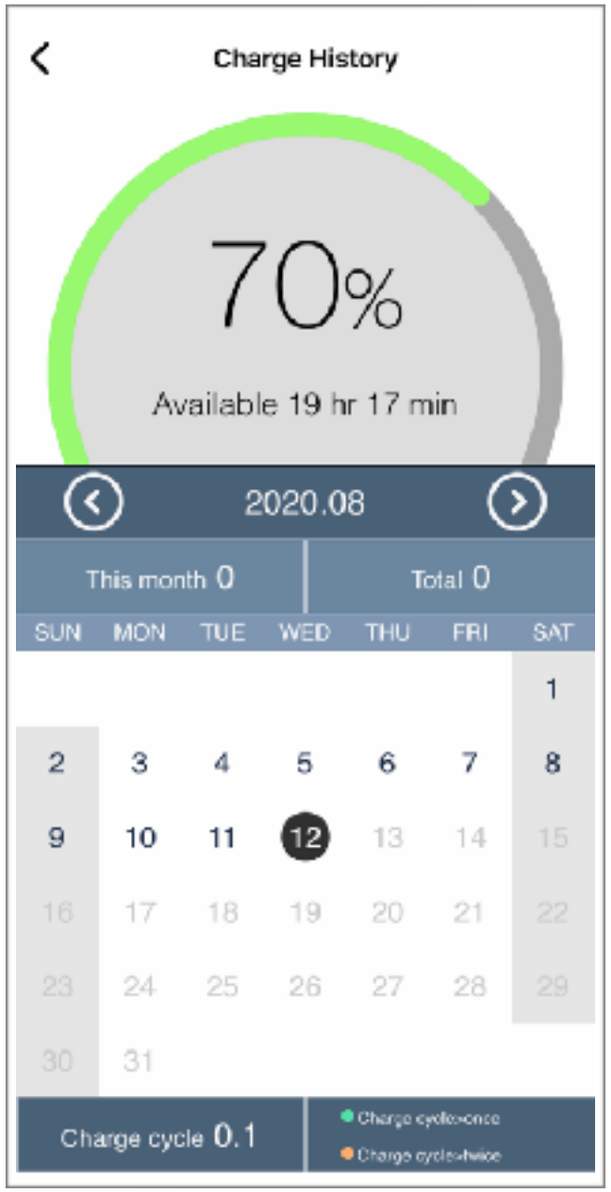


iOS feature

バッテリー

バッテリーではバッテリー残量がどれぐらいか、充電の状態及び充電記録を確認できます。充電記録はフォンドクタープラスをインストールしてから始まります。その中のサイクル回数はバッテリーの健康度を判断するための主役です。充電される際、必ずフォンドクタープラスをバックグラウンドで働かせてください。そうすると、精確な完全記録が残されますよ。

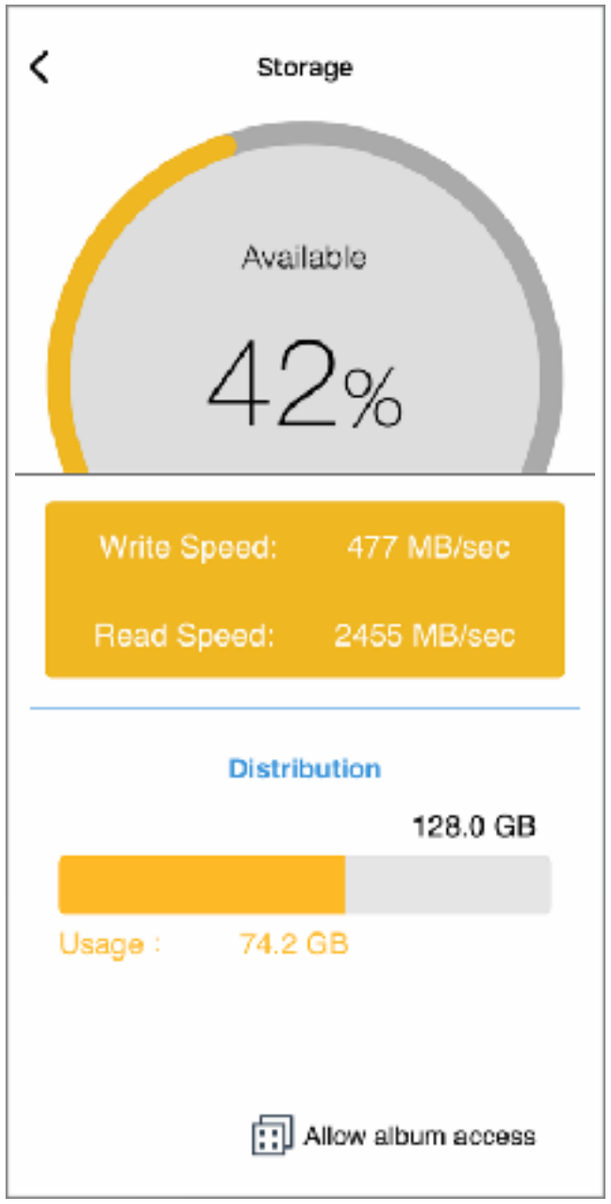


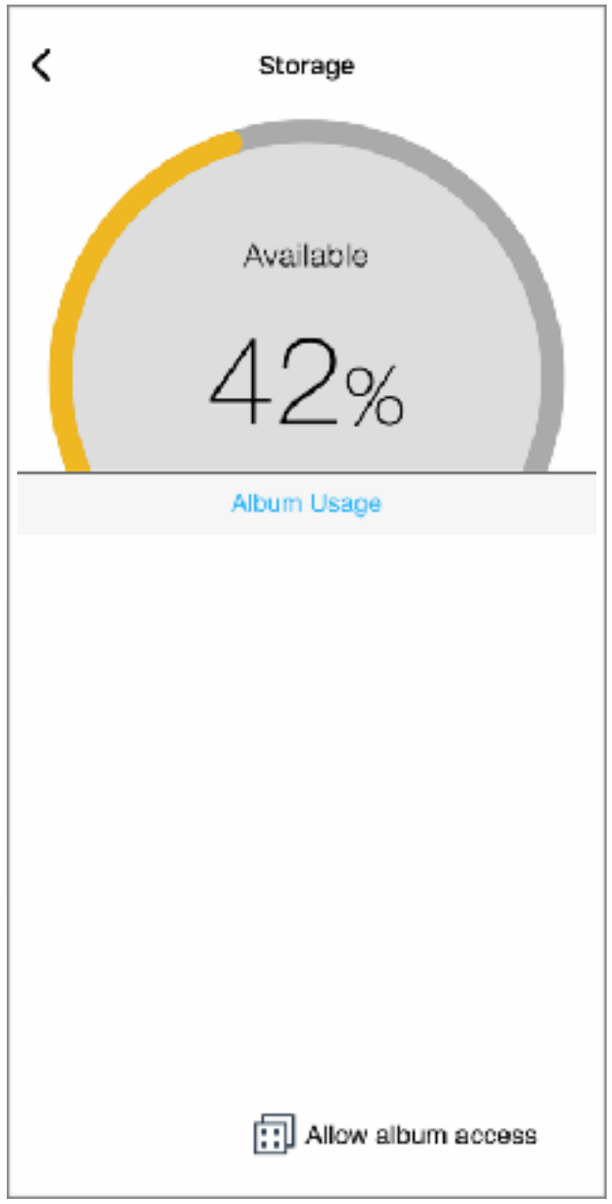


iOS feature

ストレージ

ストレージではストレージの総容量や、使用容量を確認できること以外に、SSDの読取りと書き込みの速度もご提供されます。左にスライドしてアルバムに保存してあった写真データを確認すれば、どのアルバムをそろそろ整理すべきかすぐ判断出来ます。

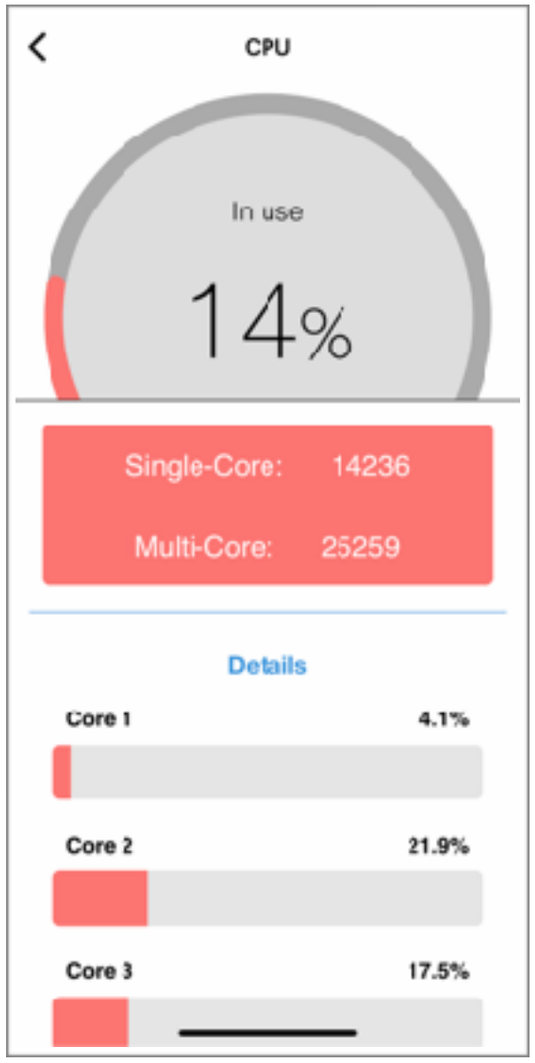


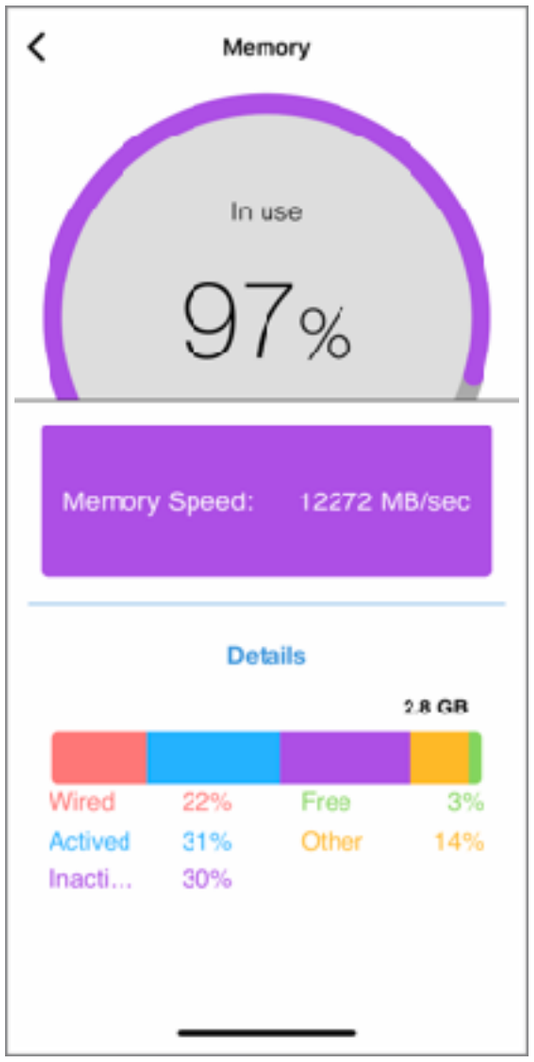


iOS feature

CPU

CPUでは、シングルコアとマルチコアを見分けることができます。各機種のパフォーマンスを比較するために非常に参考にできるデータとなります。





メモリ

メモリでは、スピード及び現在の使用比率などの情報をご提供されます。

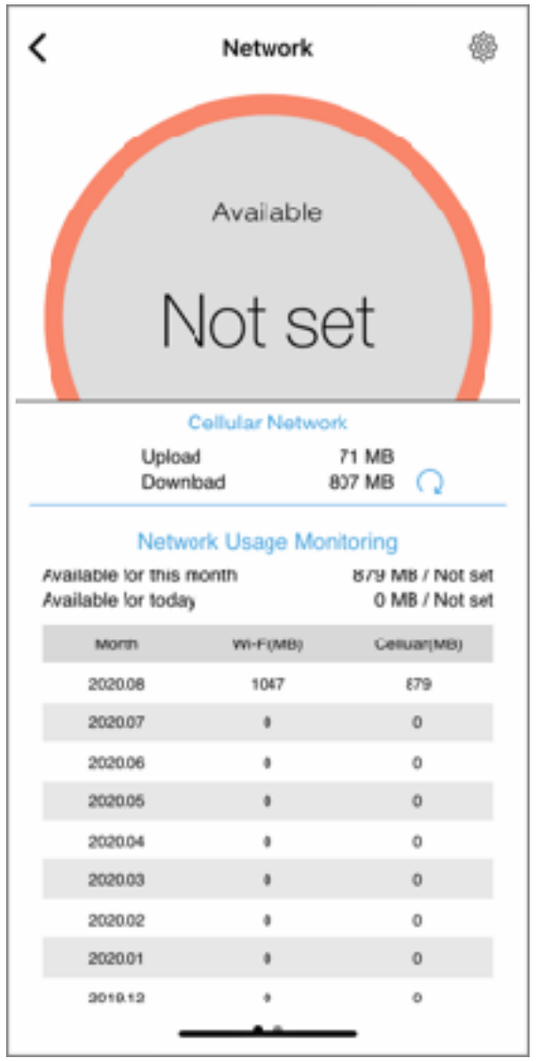
iOS feature

スペック

スペックでは、スマホのハードウェアの詳細データをご提供されます。型番、寸法などの基本データとディスプレイ、カメラ、センサ素子をご確認できます。

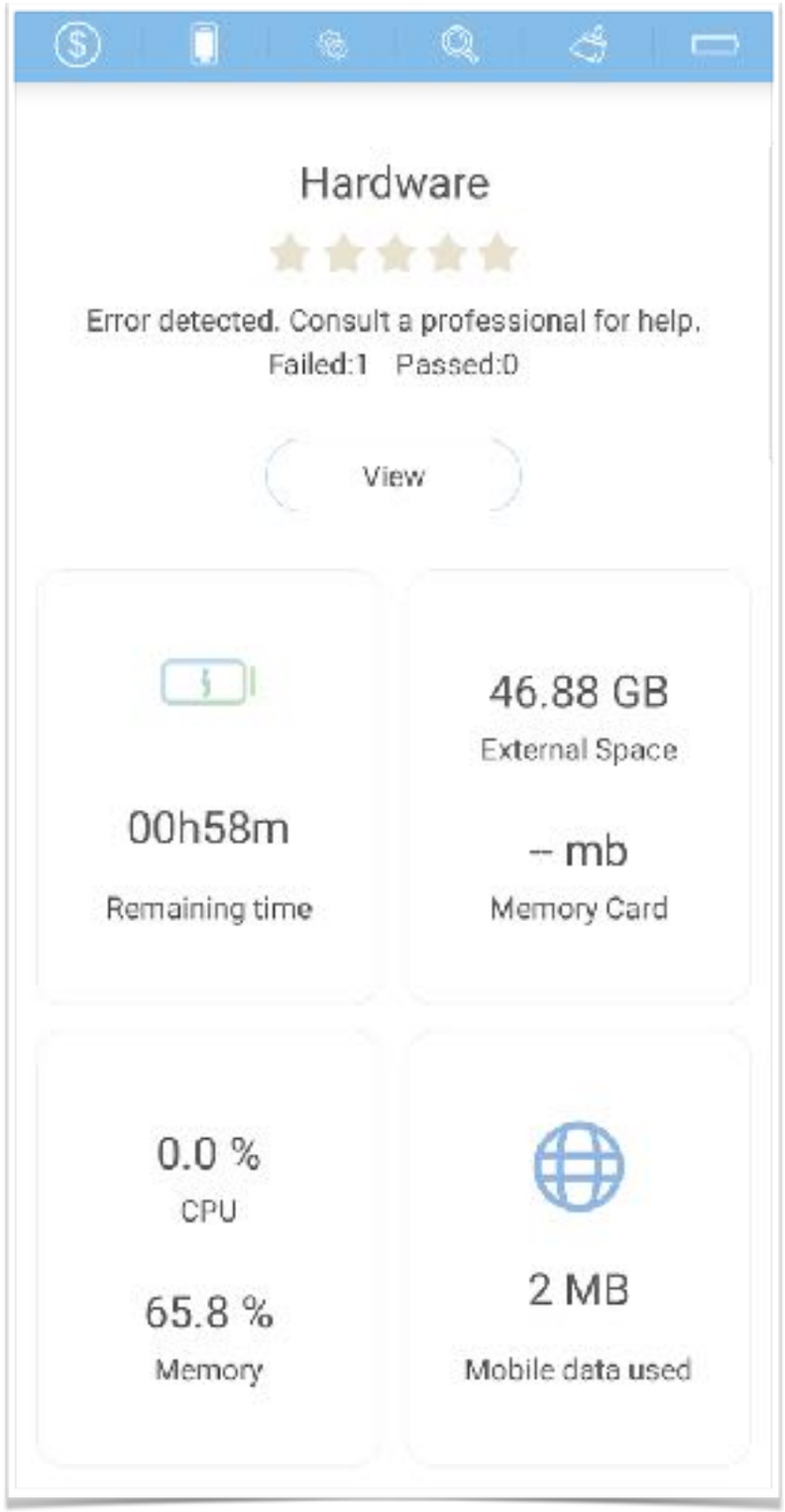
ネットワーク

ネットワークでは、通信量を監視でき、毎月の上限通信量も設定できます。ユーザーにとってはとても役に立つ機能となります。



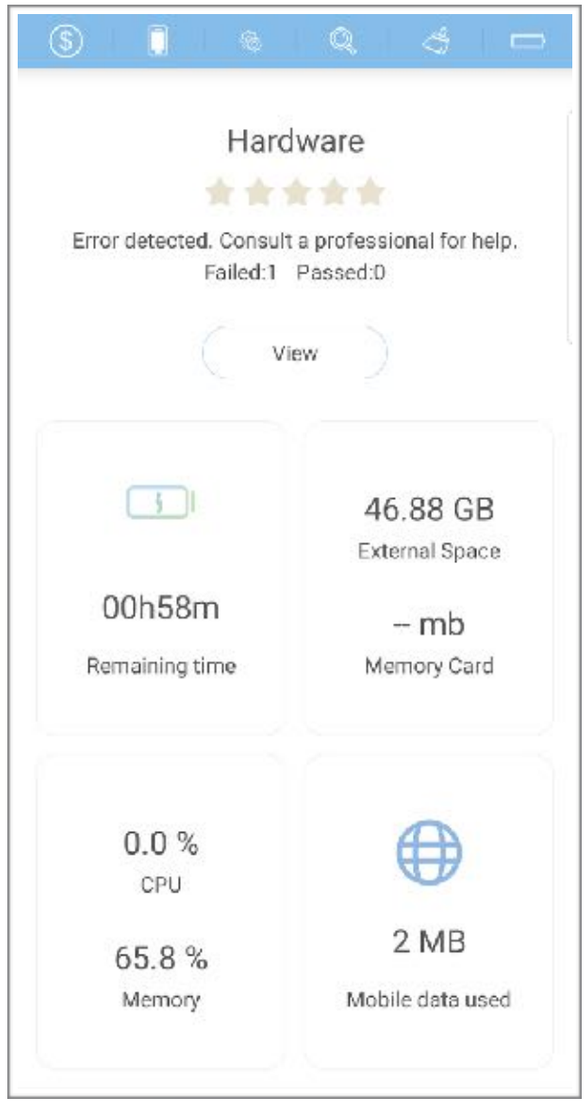
For Android version

Androidでは、システムの制限条件はiOSのように多くはありませんから、サポートできる機能は多少多くなりました。今回はAndroid版向けで大幅に改善させて頂きました。使い心地が良くないインターフェイスの設計を改良した上で、新しい機能も追加させて頂きました。ここからご紹介させてください。



Android feature

ハードウェア状態

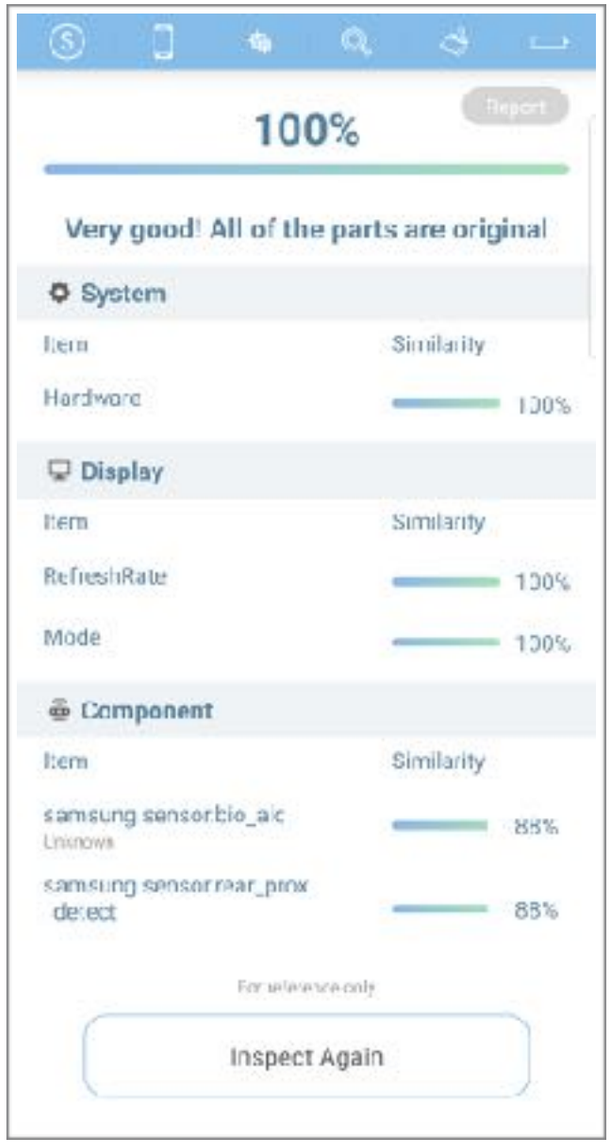


ハードウェアでは、一番上に表示されるのは検査アイテムの合格数と未合格数を説明されます。その下に表示されたのはiOSと同様にバッテリー健康度、ストレージ、メモリ、ネットワーク通信量などの情報をご確認できるところです。いずれをご確認されたいときに、タップして頂ければ、更に詳細情報を見られます。

Android feature

モバイル診断

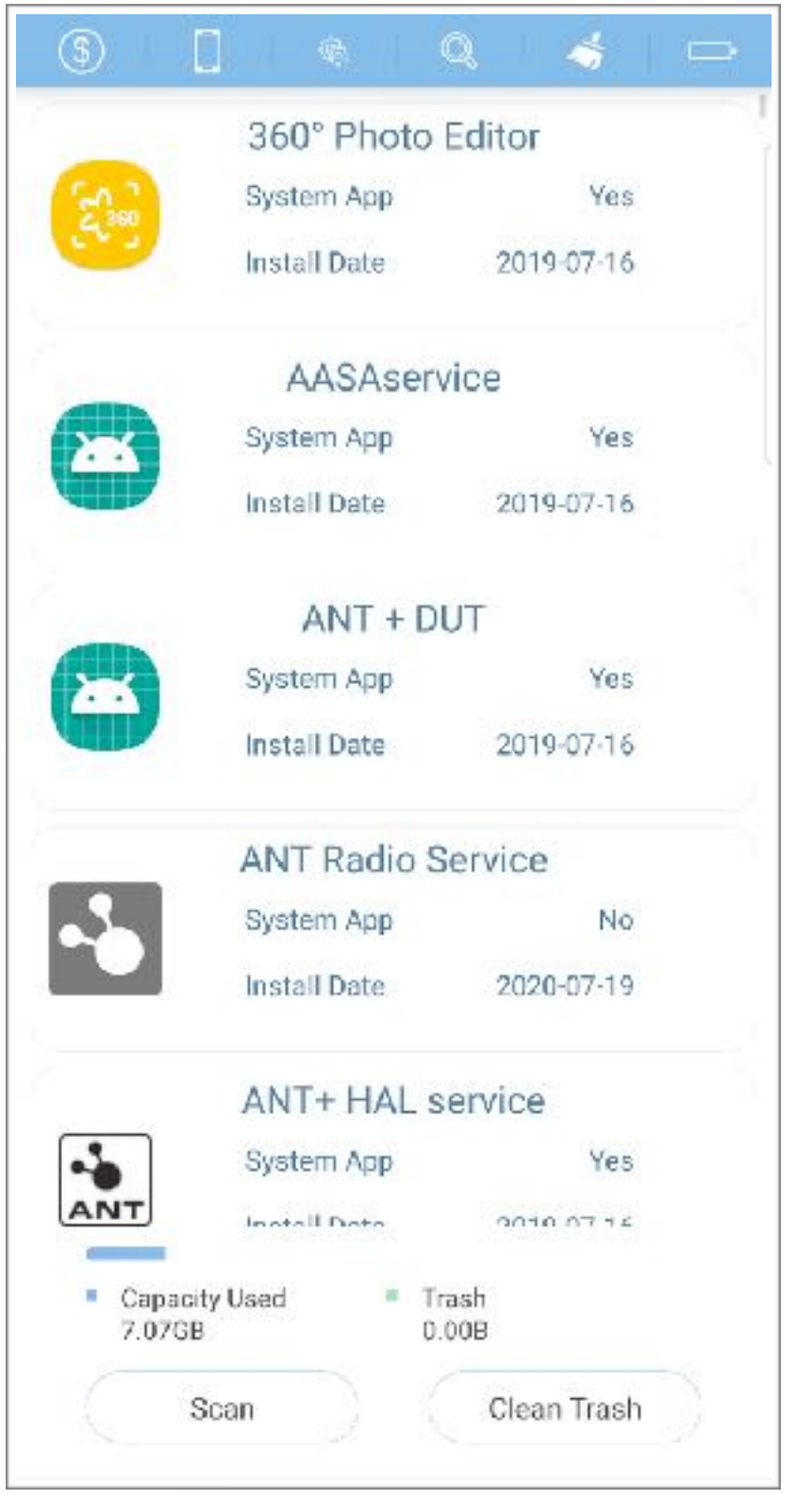
モバイル診断はAndroid版向けの検査項目です。モバイルの装置は純正品でできているかどうか検出して頂く機能です。特に修理に持って行って来たスマホにおいて、こっそりと取替えられた非純正部品があるか検出して頂けます。こういう時こそ、フォンドクタープラスに事前にモバイル診断を行って頂いて記録を残せば、修理に帰ってきたスマホの状態をすぐ確認できるでしょう。



Android feature

クリア

キャッシュをクリアするのもAndroid版向けの機能となります。すでに開けたアプリはメモリ容量をどれくらい使っているか確認できます。もしメモリの使用容量がオーバーロードになった場合、ワンタッチでクリアできます。または、もう使わないアプリを閉じてください。惜しいところに一部の機種はシステムのバージョンの制限でワンタッチ削除をサポートできないこともあります。



Android feature

バッテリー

バッテリーでは、iOSと同様にバッテリー健康度を確認できます。そして、起動中の機能を閉じたところでバッテリーの駆動時間がどれくらい残っているかユーザーにお知らせします。ところで、Android版のほうはバッテリーの発熱アラーム及びバッテリー健康診断と言う検査アイテムを追加させて頂きました。バッテリーの発熱が発生した時に警告を出して頂きますので、その際、デバイスを暫く休ませてください。

バッテリー健康診断は今回の改善版で追加した検査アイテムです。バッテリーを約10分放電させて健康度を計算されるといった検査方法です。また、この検査はバッテリー残量が60%以上で行ってください。普段はバッテリーの消耗が何だか速くないと思ったユーザーはこの検査機能をご利用してみてください。

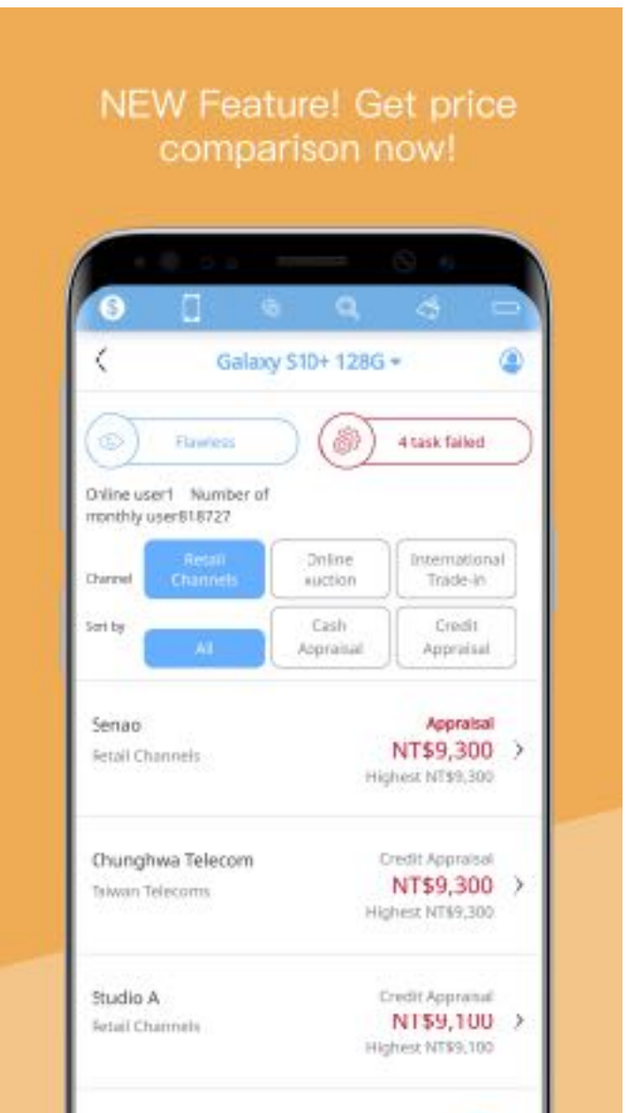
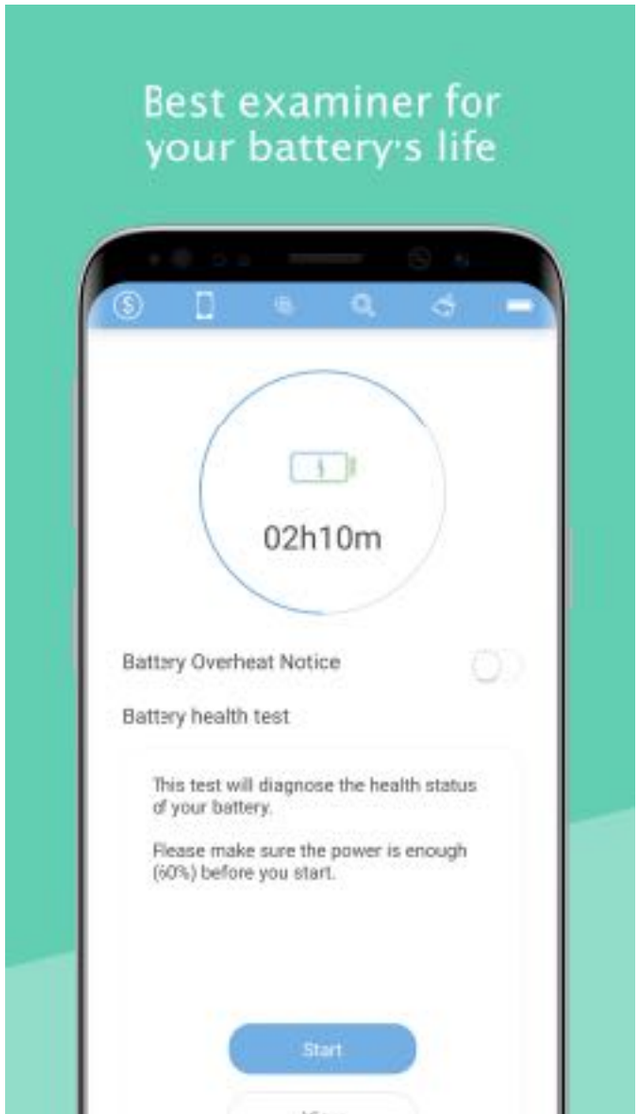
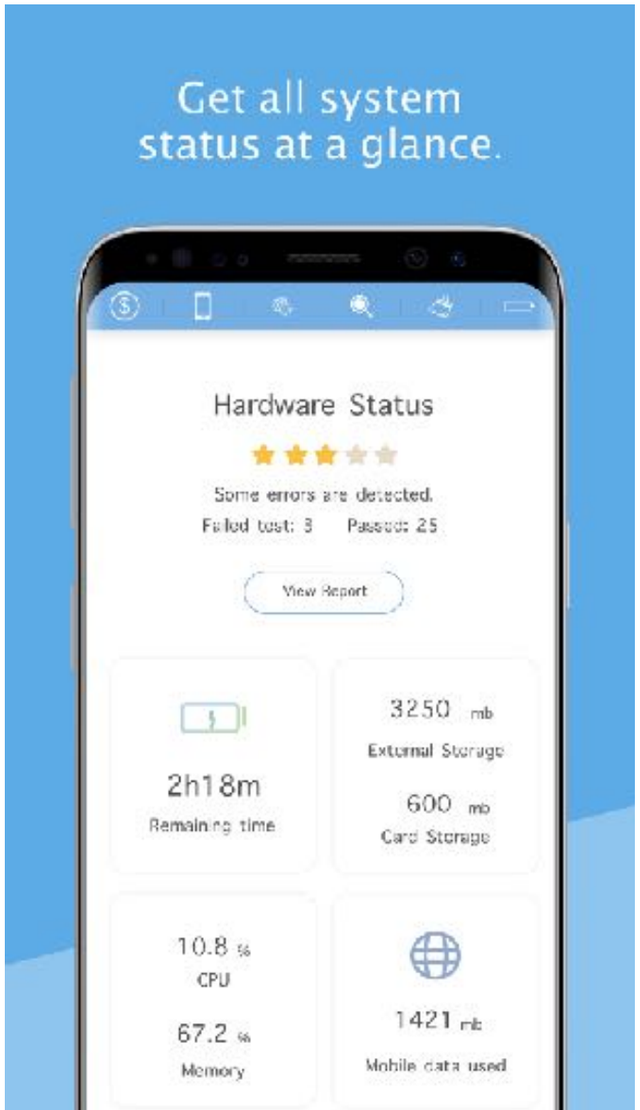
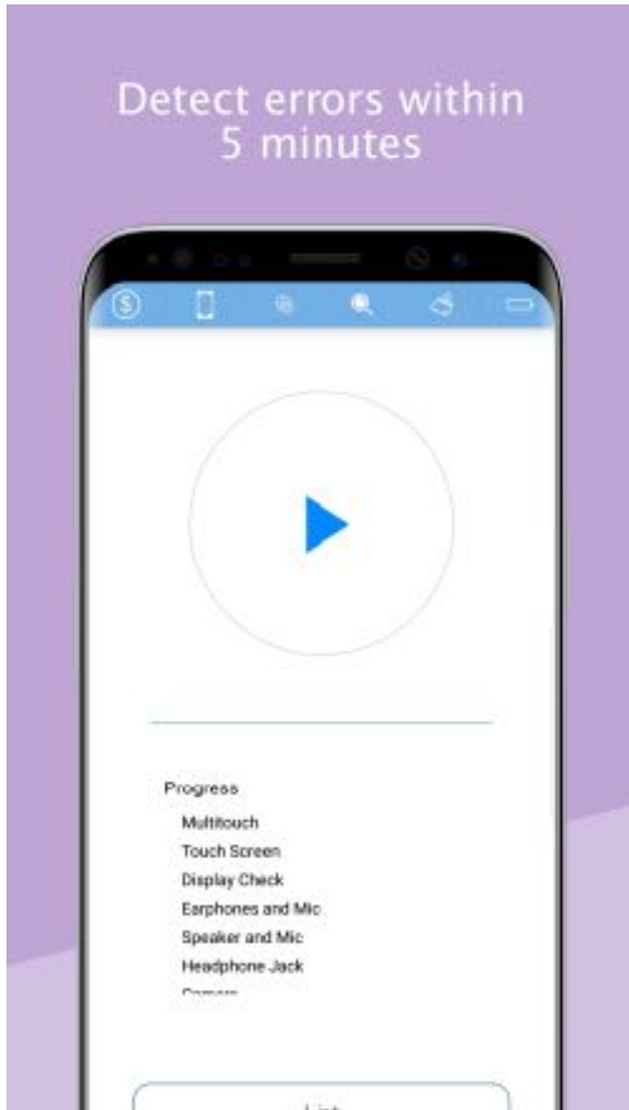
Conclusion

無料アプリとして、フォンドクタープラスはご提供した検査アイテムが隨分揃っていると思います。一部の検査アイテムはシステムの制限で自動検査ができないこともありますが、個人ユーザーにとっては非常に便利で、手軽くご利用できるアプリとなります。専門的な検査アイテムからしては十分に役に立つアプリと思います。

フォンドクタープラスは優れている検査能力と中古機の買取価格比較という特徴を強めたところで、買取価格を一気に入手するための手間が省き、もっと精確な見積りも入手できます。検査能力を重視されるユーザーにとっても、中古機の買取を求めるユーザーにとっても、実用を重んじるアプリとなります。

ちなみに、公式サイトでも説明していますが、もし業務用フォンドクタープラスをご希望される場合、業務用バージョンをご購入して頂ければと思います。業務用バージョンは検査アイテムが80項あります。最先端の検査を色々取り入れています。現在は台湾の大型流通チャネルやFOXCONNの工場にご利用されている実績があります。興味のある方は公式サイトのサービスセンターにご連絡ください。

相関リンク

（iOS版ダウンロードへ）

（Android版ダウンロードへ）